

文化の鑑賞・参加と 文化に関する国民の 意識

調査結果報告書（2022年12月）

同志社大学創造経済研究センター 河島 伸子

はじめに

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大により、文化セクターは創作・公演・展示等の活動が困難となり、大きな打撃を受けた。国民にとっても芸術文化を享受する機会が大きく損なわれた。本研究は文化芸術が今後どのように持続的発展ができるか、学際的な研究を行い、政策的提言を目指すものである。本報告書は本研究プロジェクトの研究成果の1つであり、日英それぞれの文化鑑賞・参加行動の実態と意識を把握し、さらに文化に関する価値観を理解しようとするものである。

本研究では、3年間の研究期間中に、①文化に公的セクターが介入する理由・目的の歴史的変遷と一般国民の文化に関する価値観の現状把握、②文化芸術従事者の雇用、保障などの労働環境・条件の現状と課題、望ましい姿、③文化芸術のデジタルトランスフォーメーションの進展と今後の発展、課題の3つのテーマを順に取り上げていき、最後に総括していく。

日本の文化政策研究は概して日本国内固有の問題に関心を寄せてきた。海外動向について十分な情報・知見は有していながら、国際的研究に日本を位置づける努力はあまりしてこなかったといえる。一方、イギリスは文化政策研究の先進地域としてこの分野をリードしてきたが、それだけにイギリスで起きていることと他国の動きとを比較する視点到弱。今回の共同研究を通じて、COVID-19 という未曾有の事態によりあぶり出された、日英の文化政策にとっての共通の課題とそれぞれの対応につき検討を進め、グローバルな文脈に通用する文化政策の再構築を目指すことが大きな目的である。

なお本研究は、日本学術振興会における英国との国際共同研究プログラムにおける事業委託 (2021年12月～2024年11月) を受けて推進されている (研究課題名: 持続可能な文化の将来—コロナウイルスと文化政策の再構築、研究課題番号 JPJSJRP 20211707)。これは、日本学術振興会が英国研究・イノベーション機構 (UK Research and Innovation, UKRI) との合意により、一国のみでは解決が困難な課題に対して、国際共同研究を実施することで資源の共有や研究設備の共用化等を通じた相乗効果を発揮するとともに、若手研究者等に国際共同研究の機会を提供することを目的として、我が国の大学等の優れた研究者が英国の研究者と協力して行う国際共同研究に要する経費を支援するものである。

2022年12月26日

日本側研究共同代表者 同志社大学 河島伸子

■調査概要

(1) 調査概要:

本調査では主に、子ども時代から現在に至るまでの文化芸術活動における関与や、過去からコロナ期の現在までの文化芸術活動の鑑賞行動の実践の種類やその密度、文化芸術に関する価値観・意見などの社会的意義、アート作品の購入や寄付等の文化芸術振興に関する支出について、国家文化予算などの日本の文化芸術振興と施策に関する意識や、アーティスト支援について、個人の人生観・生活価値観について調査をし考察を行った内容である。

(2) 調査方法:

調査会社が保有するインターネット調査モニターパネルに対して無作為に対象者を抽出し web 上でのアンケート調査を行いサンプル回収を実施した。

(3) 調査対象:

全国 18 歳以上の全年代について、男女均等に年代毎の偏りがないよう割付を行い調査を実施した。

(4) 調査設問数 サンプル数

設問数 : 68 問

サンプル数 : 2237 回収

(5) 調査実施期間: 2022 年 7 月 13 日(水)～2022 年 7 月 14 日(木)

I. 調査結果

■調査結果概要

●文化芸術活動における関与

- ・ 現在文化芸術関係の組織や活動に関与しているか尋ねたところ、「全く参加していない」と回答した人が約 9 割。「参加している」「活発に参加している」「たまに参加している」と回答した中で多いジャンル・組織は「地域コミュニティ組織・団体」(14.2%)、「スポーツ、レクリエーション組織・団体」(11.3%)等で、他は 10% に満たない。
 - 性別では男性の方が「参加している」と回答した人が多い。(Q1)
- ・ 文化芸術に関する関心を尋ねると「関心がある」「関心がある」14.3%、「やや関心がある」38.6%と回答した人は 52.9%。
 - 性別では女性が男性を少し上回り、年代別では 60 代～70 代(61.8%)、80 代以上(83.9%)で「関心がある」と回答した人が多い。(Q2)
- ・ 文化芸術との関与について、子どもの頃から学生までの間に文化的・芸術的体験をしたかどうか尋ねたところ、「体験がある」と回答した人の割合は 70.9%（「体験したものはない」23.2%「分からない」5.9%を除く）。体験したジャンルで多く見られたのは「学校の勉強以外の読書」49.9%、「映画(アニメを除く)」36.5%、「歴史的な建物や遺跡、名勝地の文化財」34.1%、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」28.4% 等が上位。その頃経験した文化的・芸術体験についての熱心さを尋ねてみると、「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンスなど」が「熱心に行った」35.8%（「プロを目指して本格的に行った」10.4%「かなり熱心に行った」25.4%）、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など」24.0%（2.4% 21.6%）「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌など」20.1%（3.3% 16.8%）などのダンスや音楽系のジャンルで熱心に携わった様子がうかがえた。また 13 歳までの子どもの頃の文化芸術活動参加の体験を尋ねると、経験があると回答した人は 70.3%（「これまで一度も経験したことがない」29.7%を除く）。最も多かったのは「映画館での映画鑑賞」62.2%、次いで「美術館、博物館、展覧会、芸術祭での鑑賞」31.2%など。1年に平均して参加した頻度を尋ねると全体的に「年に 1～4 回」が 70～80%を占める。その中で「オンデマンド動画配信サービスでの映画視聴」だけは「5～8 回」17.1%と「それ以上」18.6%を合わせると 35.7%に上り、頻度の多い様子がうかがえた。(Q3、Q4)
- ・ 現在自らがどのようなジャンルで文化的・芸術的活動を実践しているか尋ねたところ、「自分で実践したものはない」と回答した人が 48.6%。実践しているジャンルでは「歴史的な建物や遺跡、名勝地などの文化財」15.5%、「映画(アニメを除く)」15.1%、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館」11.8%、「美術」10.4%などが挙がる。現在実践している中で熱心さを尋ねると、特に「熱心に行ってい

る)、「かなり熱心に行っている」「プロを目指して本格的に行っている」と回答した人の割合が高く見られるのは、「ストリートダンス・ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」47.0%、「バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど」30.3%、「日本舞踊」62.5%など。(Q5)

●文化芸術の鑑賞活動

- 現在どのような文化芸術鑑賞活動(TV、CD、動画視聴以外)をしているか尋ねたところ、「鑑賞したものはない」と回答した人の割合は 41.6%。「鑑賞している」と回答した人の中で高い割合が見られたのは「歴史的な建物や遺跡、名勝地などの文化財」19.2%、「映画(アニメを除く)」18.3%、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」15.0%、「美術」13.9%、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」13.6%など。(Q6)
 - 性別で女性が特に男性より高く見られたのは「ミュージカル」(男性 2.6%、女性 7.0%)、「映画(アニメを除く)」(男性 16.6%、女性 20.0%)など。
 - 年代別では全体的に 60～70 代、80 代以上の回答した人の割合が高くなっている。一方、20～30 代の若い層が中高年齢層より回答割合が高いのは「アニメ映画、メディアアート」11.7%が挙げられる。
 - 文化芸術鑑賞活動の頻度はどのジャンルでも「年に 1～4 回程度」が最も回答した人の割合が高い。特に鑑賞頻度が多い(「年に 5～10 回」「月に 1～2 回」「週に 1 回以上」)ジャンルは、「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」37.8%、「映画(アニメを除く)」28.8%、「日本舞踊」26.4%、「演芸」25.4%、など。
- 2016～2020 年 2 月新型コロナウイルス感染症拡大前までに行った文化芸術の鑑賞活動を尋ねたところ、「鑑賞したものはない」と回答した人の割合は 40.8%で、現在と比較すると若干少ない(鑑賞している人は以前の方が多かった)。鑑賞したジャンル上位は、「映画(アニメを除く)」23.5%(現在は 18.3%)、「歴史的な建物や遺跡、名勝地などの文化財」23.3%(現在は 19.2%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」18.2%(現在は 15.0%)など。上位ジャンルでは感染拡大前の方が鑑賞活動を多少多く行っていた様子。鑑賞活動の頻度が高いジャンルは「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」40.5%(現在は 37.8%)、「映画(アニメを除く)」23.2%(現在は 28.8%)。「美術」22.1%(現在は 22.5%)、「日本舞踊」22.3%(現在は 26.4%)など。「映画(アニメを除く)」や「日本舞踊」「美術」等のように、コロナ感染症拡大前より現在の頻度のほうが増加しているジャンルが複数あった。(Q7, Q8)
- 鑑賞活動の頻度が多い人が感じる意義について尋ねると、「当てはまる」「良く当てはまる」「やや当てはまる」と回答された上位は「気分転換になる、ストレス解消になる、癒される」74.6%、「ワクワクすることが多い」(73.5%)「新たな発見・視点がある」68.0%など。中でも「良く当てはまる」との回答で最も割合が高かつ

たのは、「気分転換になる、ストレス解消になる、癒される」28.0%、次いで「ワクワクすることが多い」22.8%。他に「良く当てはまる」の中で割合が高いのは「新たな歴史的、文化的知識を得ることができて楽しい」22.6%、「好きな実演家、作品等を生で見られて楽しい」20.6%など。(Q9)

- 2020年3月以降でインターネットによる有料オンライン配信での鑑賞経験を尋ねたところ、「鑑賞したものはない」72.6%。鑑賞した人は3割に満たない。鑑賞したジャンルで回答した割合が高かったのは「映画(アニメを除く)」8.1%、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽」7.2%、「アニメ映画、メディアアート」4.6%など。
- オンラインによる鑑賞経験があるのは、男性が女性より多く(男性30%、女性24.9%)、年代では20~30代(39.1%)が多い。オンラインにおける文化鑑賞については、全体で「関心がある」20.3%、「大いに関心がある」4.2%、「少し関心がある」16.1%。「大いに関心がある」と回答した割合は男性が女性より高く(男性5.0% 女性3.6%)、年代は20~30代(8.5%)が他の年代に比べて高い。オンラインの文化鑑賞に対する意見で「当てはまる」「良く当てはまる」「やや当てはまる」ことを尋ねると、「交通費などかからず出費が少なく楽しめるのでよい」48.3%、「周囲を気にせず自分のペースやデバイスで鑑賞できるのでよい」44.4%、「時間や回数など物理的な制約がなく鑑賞できてよい」43.4%、「これまで鑑賞したことのないジャンルを気軽に試すことができる」39.5%などが上位。「生で鑑賞することの代替に過ぎない」というネガティブ意見では、「当てはまる」41.9%、「良く当てはまる」11.4%、「やや当てはまる」30.5%。この意見には女性の回答した割合(男性38.9% 女性44.7%)が高く見られ、年代別では80代以上を始め年代が高くなるほど回答した割合が高くなっており(20~30代34.6% 40~50代40.3% 60~70代48.6% 80代以上64.5%)、男性や若い年代層のほうが「オンライン文化鑑賞」に対する抵抗感が低く、理解や価値を感じているのがうかがえる。(Q10,Q11,Q12)
- 「コロナ収束後の文化活動」に関する考えを尋ねたところ、「オンラインと生の鑑賞を適宜併用していく」40.5%、「コロナ禍以前のスタイルに戻る」39.9%、「オンラインでの鑑賞に中心が移る」19.6%。「オンラインと生の鑑賞を適宜併用していく」と回答したのは女性が男性より高く(男性32.4% 女性50.8%)、年代別では40~50代が高い(20~30代34.6% 40~50代53.6% 60~70代30.7% 80代以上0%)。「オンラインでの鑑賞に中心が移る」と回答した割合は男性のほうが女性より高く(男性21.7% 女性16.9%)、年代別では20~30代(28.1%)が高い。SNSによる文化芸術鑑賞は「視聴していない」60.1%。「毎日視聴(1時間以上)している」人は15.1%。性別では男性のほうが女性より回答した割合が高く(男性18.3% 女性12.0%)、10代(66.6%)・20~30代(24.4%)が他の年代より高くなっている。(Q13,Q14)

●文化芸術における社会的意義

- 文化芸術が社会に対して持つ意義を尋ねたところ、「そう思う」「非常にそう思う」「多少そう思う」と共感を得られたのは、1位「芸術・文化は、人々が豊かに生きることにつながる」62.5%(21.8% 40.7%)、2位は「芸術・文化は観光客を誘致するのに役立つ」56.1%(16.0%40.1%)、3位は「教養を高めるのに重要である」54.7%(17.1% 37.6%)が上位に挙がる。(Q15)
 - 性別では、女性が、項目全てについて、「そう思う」「非常にそう思う」「多少そう思う」と回答した人の割合が男性を10%以上上回る。
 - 年代別では、20～30代が全てにおいて回答の割合が50%に満たない。それに対して60～70代と80代以上は「そう思う」「非常にそう思う」「多少そう思う」の回答した割合が60～80%と高い傾向。年代が高くなるにつれて、「芸術・文化が社会に対して意義を持つ」価値を感じているのうかがえる。
- 文化芸術に関する見解についての共感度を尋ねたところ、「賛成できる」「強く賛成する」「ある程度賛成できる」と回答した人の割合が高いのは「芸術・文化は、時間に余裕がなければ楽しめない」48.7%(11.3% 37.4%)、「芸術・文化は、お金の余裕がなければ楽しめない」40.6%(10.1% 30.5%)、「芸術・文化は、知性・教養がなければ楽しめない」23.4%(3.8% 19.6%)等が上位。(Q16)
 - 性別では、「芸術・文化はお金に余裕がなければ楽しめない」(男性35.8% 女性45.3%)「芸術・文化は時間に余裕がなければ楽しめない」(男性44.4% 女性52.7%)の項目で女性が男性より高い。男性は「芸術・文化は一部の人の趣味であり、自分には関係ない」の項目が女性より高かった(男性18.5% 女性14.7%)。
 - 年代別では10代、40～50代が「芸術・文化はお金に余裕がなければ楽しめない」の回答で他の年代より高くなっており、さらに10代、40～50代、60～70代は「芸術・文化は時間に余裕がなければ楽しめない」で高くなっている。20～30代は「芸術・文化は一部の人の趣味であり、自分には関係ない」の割合が他年代より高い。
- 文化芸術が生活に対して持つ意義の共感度を尋ねたところ、「賛成する」「強く賛成する」「ある程度賛成できる」と回答した人の割合が高い上位は、「日常生活ではできない経験を提供してくれる」55.6%(12.4% 43.2%)、「エンタテインメントを提供してくれる」51.4%(8.9% 47.5%)、「日常生活をより創造的なものにしてくれる」48.7%(9.2% 39.5%)など。(Q17)
 - 性別では全て女性の回答の割合が男性より高い。特に男性より10%以上高いのは7項目に及び、特に14%の開きがあるのは「日常生活ではできない経験を提供してくれる」(男性48.0% 女性62.8%)。

- 年代別では80代、60～70代が若い年代に比べて「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」とする項目が多い。20～30代は「オンラインコミュニティでのつながりを深めてくれる」(20～30代 24.3% 40～50代 18.4% 60～70代 16.6% 80代以上 22.6%)が他年代より高くなっている。

●文化芸術振興に関する支出について

- 過去5年間で1品あたりの価格が10万円(税込)以上の芸術作品の購入経験を尋ねたところ、「ない」との回答が96.4%、「ある」と回答した人は3.6%と1割に満たない。「ある」と回答したのは、男性が多く(男性 6.1% 女性 1.3%)、年代別では20～30代(5.0%/40～50代 2.6% 60～70代 3.8% 80代以上 3.2%)が他年代より高い。(Q19)
- この1年間に芸術文化に関連した支出を尋ねたところ、「0円」の回答が54.4%で5割強。支出した金額で最も割合が多く見られたのは「1～10,000円未満」(21.5%)、「10,000～50,000円未満」(13.9%)。(Q20)
 - 性別では、全ての金額において、男性が回答した割合が女性を上回る。
 - 年代別では、20～30代が支出金額の多い回答で回答した人の割合が高い。「300,000～500,000円未満」(1.2%)「500,000～1,000,000円未満」(0.3%)「1,000,000円以上」(20～30代 0.7%、40～50代 0.8%)と他の年代に比べて高い。
- この1年間に芸術文化に対して行った寄付金額を尋ねたところ、「0円」との回答割合が88.7%。寄付金額で回答した人の割合が高いのは「10,000円未満」5.6%、「10,000～50,000円未満」3.4%。寄付した金額では全ての金額帯において男性が女性より回答した割合が高い。年代別で「50,000円」以上の高額寄付の割合が他の年代と比べて高いのは20～30代。(Q21)

●日本の文化芸術振興と施策に関する意識

- コロナ禍2年間で振り返って芸術文化に対する考えを尋ねたところ、「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が高い内容は、「感染の恐れがあるので、文化イベントに参加することは躊躇する」38.3%(10.9% 27.4%)、「生の文化鑑賞の重要性を意識した」37.4%(11.1% 26.3%)、「文化団体およびアーティストやクリエイターが国家的補償を受けることは当然である」29.0%(5.7% 22.8%)などが上位。(Q22)
 - 性別では女性が、全ての項目で「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が男性より高い。
 - 年代別では20～30代が「オンラインでの文化鑑賞の重要性を意識した」で他の年代より高い。80代以上は「感染の恐れがあるので文化イベントに参加することには躊躇する」が他年代より高く(51.6%)、「生の文化鑑賞の重要

性を意識した」(64.6%)、「家で文化鑑賞をすることで癒された」(46.2%)等が高くなっている様子が見られた。

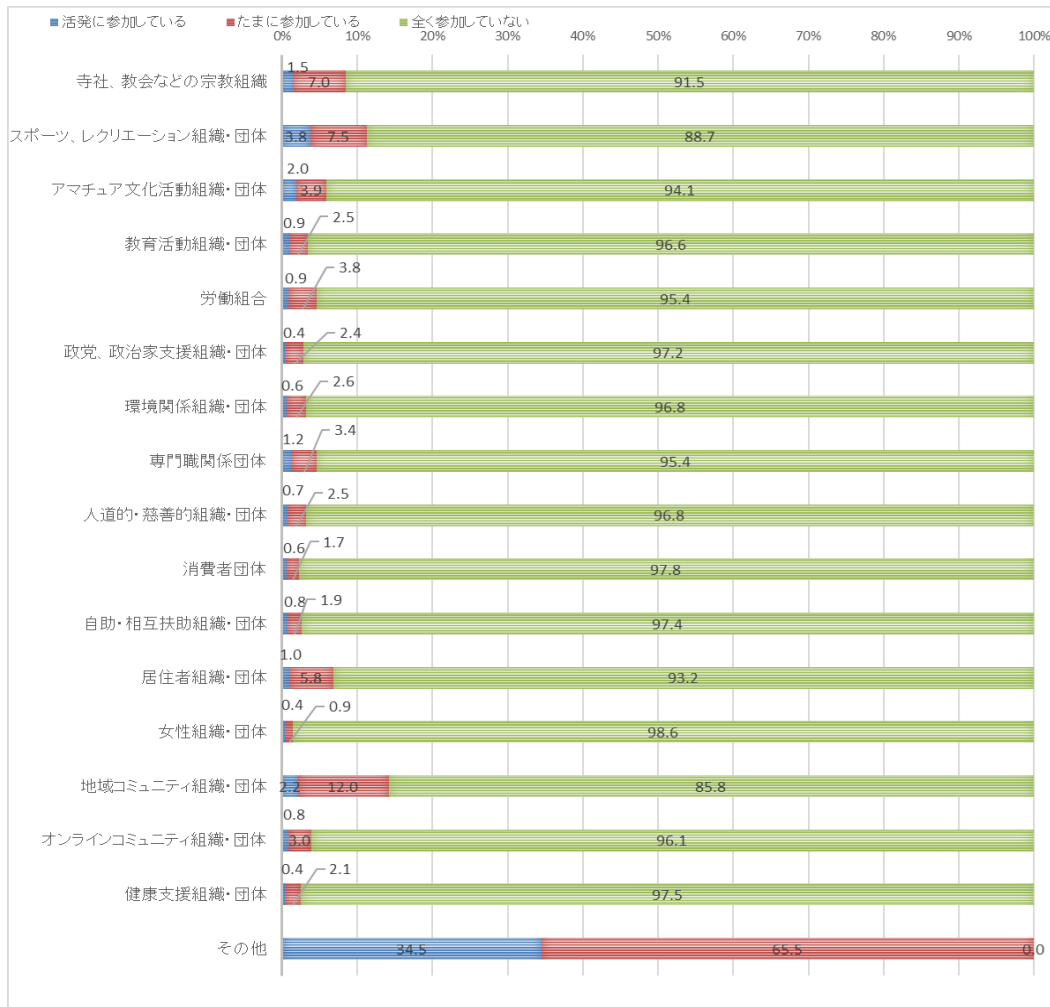
- 今後日本は文化予算を増やしていくべきかどうかを尋ねたところ、「増やしていくべきだと思う」66.7%。年代層が上がるほど「増やしていくべき」と回答している人の割合が高い。性別での大きな差はあまり見られない。(Q23)
- 日本の文化振興のために今後力を入れるべき施策を尋ねたところ、1位は「子どものころから美術館や劇場に親しめる環境を整備する」(30.0%)、「鑑賞料金等を安くする」(17.5%)、「魅力的な展示・イベントを行う」(14.4%)「日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する」(11.3%)等が上位。(Q24)
 - 性別では、女性が「鑑賞料金等を安くする」と回答した人の割合が男性より高い(男性 14.7% 女性 20.1%)。
 - 年代別では、40～50代も「鑑賞料金等を安くする」への反応が高い(21.5%)。「日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する」については20～30代が他の年代より高くなっており(14.3%)、「文化イベントの関連情報や文化資源に関する情報等、日本の文化情報を積極的に提供する」では、60～70代(4.7%)と80代以上(6.5%)が他の年代より高くなっている。
- 日本文化振興のためのアーティストへの直接支援における必要性を尋ねたところ、「必要」57.1%で半数を超えた。年代別では、他の年代と比べて80代以上の8割強(83.9%)が「必要」と回答、その他60～70代も62.7%が「必要」と回答。性別での大きな差は見られない。(Q25)
- 日本の文化振興のためにアーティストへの直接支援が必要と回答した人(n=1278)に、どのような支援が必要と思うか尋ねると、「発表にかかる費用(場所代など)の支援」(49.7%)、「制作場所や機会の提供」(45.0%)、「アーティストに対する税制上の優遇措置」(36.1%)などが上位に挙がる。(Q26)
 - 性別では、男性が「アーティストに対する税制上の優遇措置」(45.6%)や「アーティストに対する生活給付金」(31.8%)など金銭面での支援が必要と回答した人の割合が女性より高い。
 - 年代別では60代～70代、80代以上が「発表にかかる費用の支援」(54.4% 69.2%)や「海外留学、研修制度の拡充」(40.1% 46.2%)が必要と回答した人の割合が他の年代と比べて高い。また60～70代では「制作場所や機会の提供」についても必要と回答した人が50.6%と半数を超えた。

I -1. 文化芸術活動における関与

Q1 あなたは現在、以下のような組織、活動にどれぐらい関わっていますか。それぞれについてお答えください。

現在、文化芸術の組織や活動に関与しているか尋ねたところ、全体的に「全く参加していない」と回答した人がほぼ9割。

「参加している(「活発に参加している」「たまに参加している)」と回答した人の割合が1割以上見られたジャンル・組織は「地域コミュニティ組織・団体」(14.2%)、「スポーツ、レクリエーション組織・団体」(11.3%)、次いで「寺社・教会などの宗教組織」(8.5%)、「居住者組織・団体」(6.8%)。関与率について、性別では、すべてのジャンルにおいて男性の割合が女性より高くなっている。特に男性の回答した割合が高いのは「地域コミュニティ組織・団体」(16.8%)、「スポーツ、レクリエーション組織・団体」(14.3%)など。



I—1. 文化芸術活動における関与

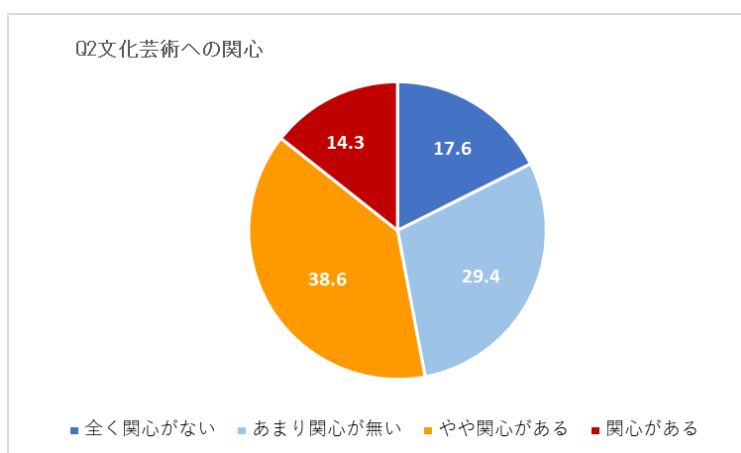
Q1 組織・活動に「参加している（「活発に参加している」「たまに参加している）」	全体 (n 2237)	男性 (n 1085)	女性 (n 1152)
全体%	100	100	100
寺社、教会などの宗教組織	8.5	11.2	5.9
スポーツ、レクリエーション組織・団体	11.3	14.3	8.5
アマチュア文化活動組織・団体	5.9	6.4	5.3
教育活動組織・団体	3.4	4.7	2.2
労働組合	4.6	7.1	2.3
政党、政治家支援組織・団体	2.8	4.9	0.9
環境関係組織・団体	3.2	4.8	1.7
専門職関係団体	4.6	7.3	2.2
人道的・慈善的組織・団体	3.2	4.1	2.3
消費者団体	2.2	3.1	1.4
自助・相互扶助組織・団体	2.6	4.1	1.2
居住者組織・団体	6.8	8.8	4.9
女性組織・団体	1.4	1.4	1.3
地域コミュニティ組織・団体	14.2	16.8	11.8
オンラインコミュニティ組織・団体	3.9	5.1	2.7
健康支援組織・団体	2.5	3.6	1.5

Q2	あなたは芸術・文化、文化遺産一般に関心がありますか。
-----------	-----------------------------------

芸術・文化、文化遺産一般に対する関心を尋ねたところ、「関心がある(「関心がある」(14.8%)
「やや関心がある」(38.6%))」と回答した人の割合は 52.9%。

年代別では、60～70代と80代以上で「関心がある」「関心がある」「やや関心がある」と回答した人の割合(それぞれ 61.8%、83.9%)が全体と比べて高い。

性別では、女性のほうが、「関心がある」「関心がある」「やや関心がある」と回答した人の割合(56.1%)が高いが、の「関心がある」のみについては男性が少し上回る。



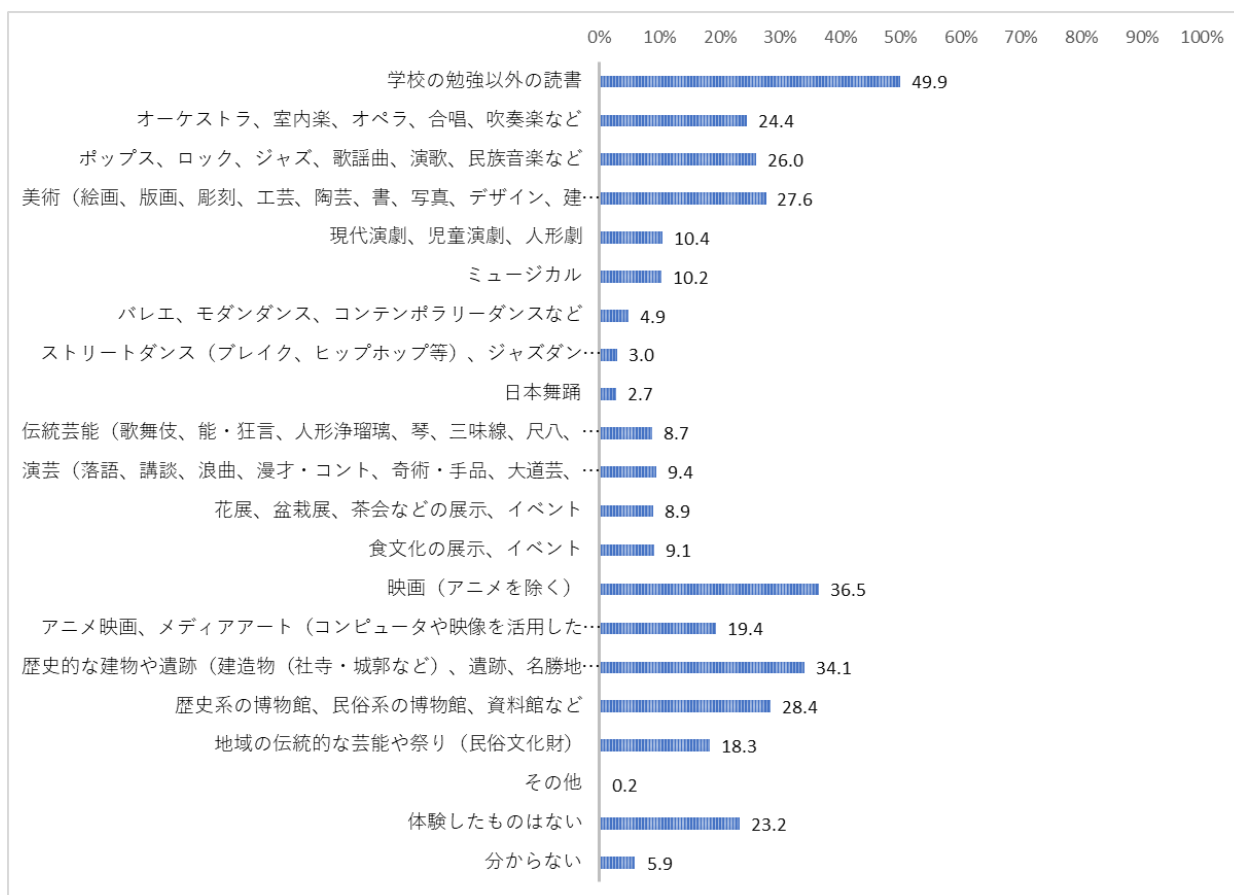
Q2 芸術・文化・文化遺産一般への関心	全体(n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全く関心がない	17.6	18.7	16.6	0.0	25.6	21.4	6.8	3.2
あまり関心がない	29.4	31.6	27.3	0.0	25.9	30.7	31.4	12.9
やや関心がある	38.6	34.3	42.7	100.0	35.0	34.6	46.4	45.2
関心がある	14.3	15.4	13.4	0.0	13.6	13.3	15.4	38.7

Q3 あなたは、子どもの頃から学生までの間、以下のような文化的・芸術的体験をしていますか。(複数回答)

子どもの頃から学生までの間で、文化的・芸術的体験の経験について尋ねたところ、「経験している」と回答した人の割合が高いジャンルは「学校の勉強以外の読書」(49.9%)、「映画(アニメを除く)」(36.5%)、「歴史的な建物や遺跡」(34.1%)、「歴史系の博物館、風俗系の博物館、資料館など」(28.4%)などが上位に挙がる。次いで「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」(27.6%)、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民俗音楽など」(26.0%)、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など」(24.2%)。

「現代演劇、児童演劇、人形劇」「ミュージカル」などの演劇系、「バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど」「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」「日本舞踊」などの舞踊系、「伝統芸能」「演芸」「花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント」などの古典文化系は1割弱で経験者が少ない様子がうかがえた。

性別では、ほとんどのジャンルで「女性」が男性より回答した人の割合が高い中、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽」、「アニメ映画、メディアアート(コンピュータや映像を活用したアート)など」の2ジャンルで、「男性」が回答した人の割合が上回っている。

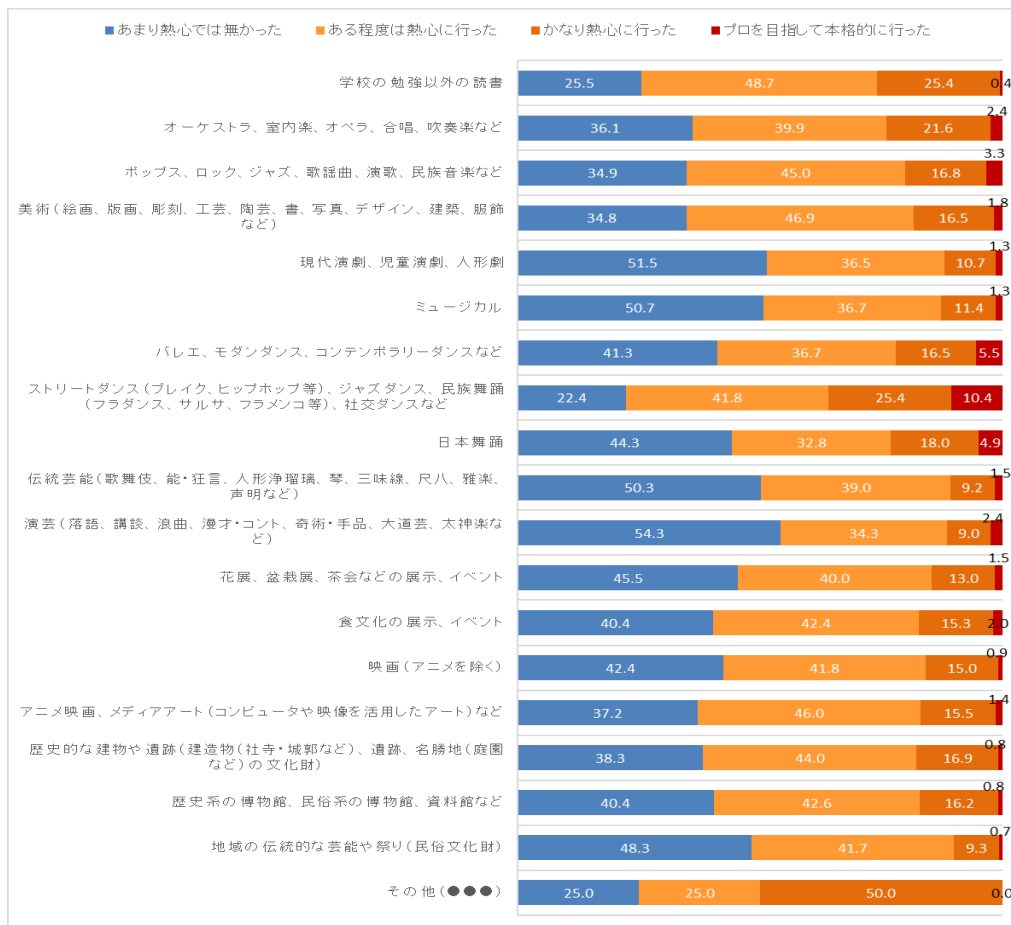


I —1. 文化芸術活動における関与

Q3 子どもの頃～学生までの間における文化的・芸術的体験の有無	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
学校の勉強以外の読書	49.9	44.1	55.4	100.0	39.0	52.6	55.0	48.4
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	24.4	18.6	29.9	0.0	22.1	24.9	26.3	12.9
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	26.0	27.0	25.1	33.3	20.2	29.0	27.9	3.2
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	27.6	23.6	31.4	33.3	23.0	29.2	29.3	29.0
現代演劇、児童演劇、人形劇	10.4	7.6	13.1	0.0	8.9	11.4	10.7	6.5
ミュージカル	10.2	7.1	13.2	33.3	9.0	11.9	9.4	0.0
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	4.9	2.1	7.5	0.0	4.5	5.6	4.3	3.2
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等）、ジャズダンス、民族舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ）、ダンスなど	3.0	2.5	3.5	0.0	4.2	3.4	1.7	0.0
日本舞踊	2.7	1.0	4.3	0.0	1.6	2.4	4.0	6.5
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など）	8.7	7.0	10.3	0.0	7.0	8.5	10.2	12.9
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）	9.4	10.0	8.9	0.0	8.2	9.2	10.7	9.7
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント	8.9	5.3	12.4	0.0	5.7	7.8	13.1	9.7
食文化の展示、イベント	9.1	8.3	9.8	0.0	10.1	9.7	7.5	6.5
映画（アニメを除く）	36.5	34.9	37.9	66.7	33.0	39.0	36.4	22.6
アニメ映画、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）など	19.4	21.3	17.5	66.7	26.4	22.4	10.1	3.2
歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）	34.1	33.3	34.9	66.7	25.7	36.2	38.0	35.5
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	28.4	27.6	29.2	33.3	23.1	30.4	30.6	19.4
地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	18.3	16.9	19.7	0.0	15.5	18.9	19.8	22.6
その他	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0
体験したものはない	23.2	27.4	19.3	0.0	24.2	22.9	22.5	32.3
分からない	5.9	5.6	6.2	0.0	10.8	5.1	3.1	3.2

Q3 S2 あなたは、子どもの頃から学生までの間に経験した、文化的・芸術的体験は、どの程度の熱心さで行いましたか。

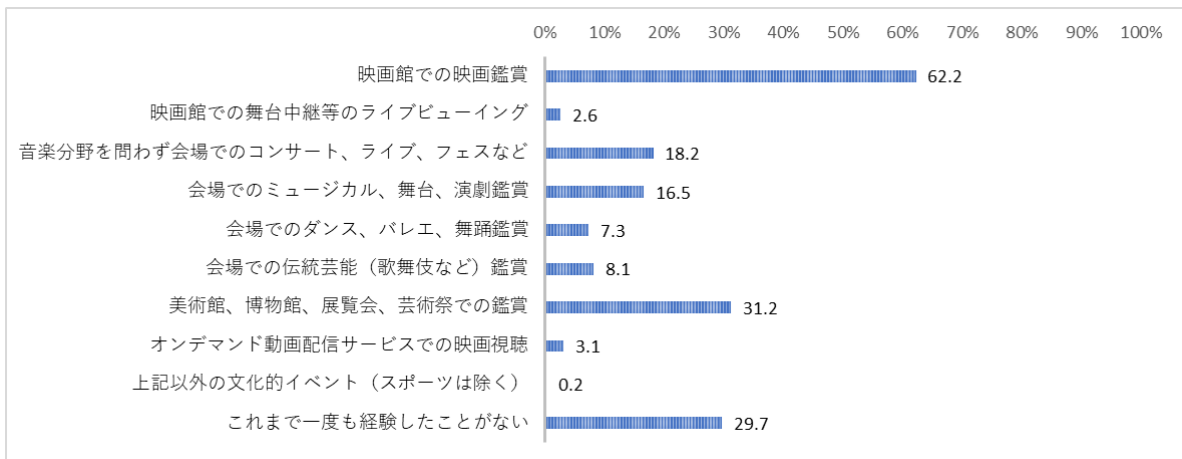
子どもの頃から学生までの間に経験した、文化的・芸術的体験における熱心度を尋ねたところ、「熱心に行った(「ある程度は熱心に行った」「かなり熱心に行った」「プロを目指して本格的に行った)」と回答されたジャンルでは、「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンスなど」(77.6%)、「学校の勉強以外の読書」(74.5%)、「美術」(65.2%)、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌など」(65.1%)、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など」(63.9%)などが上位に挙がる。特に、「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」は「かなり熱心に行った」(25.4%)と「プロを目指して本格的に行った」(10.4%)の回答を合わせると35.8%、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など」は24.0%(21.6%、2.4%)、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌など」は20.1%(16.8%、3.3%)と2割強になっている。経験者の母数は「学校の勉強以外の読書」と回答した人が1116名であるのに対して「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス」は67名、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など」は546名、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌など」は582名と数少ないものの、携わった人に関しては比較的熱心に取り組んでいた人が多いことがうかがえる。



Q4 あなたは、13歳までの子どもの頃に、選択肢に挙げたような文化活動に、参加したことがありますか。(複数回答)

13歳までの子どもの頃に参加したことがある文化活動を尋ねたところ、「映画館での映画鑑賞」(62.2%)が1位、次いで「美術館、博物館、展覧会、芸術祭での鑑賞」(31.2%)、「音楽分野を問わず会場でのコンサート、ライブ、フェスなど」(18.2%)、「会場でのミュージカル、舞台、演劇鑑賞」(16.5%)などが上位に挙がっている。

性別では、「映画館での映画鑑賞」「美術館、博物館、展覧会、芸術祭での鑑賞」「会場でのコンサート、ライブ、フェスなど」「会場でのミュージカル、舞台、演劇鑑賞」など“会場に赴いて鑑賞する”という行為については、全体的に女性のほうが3~8%程度、男性より回答した人の割合が高くなっている。それに対して、「ライブビューイング」「オンデマンド動画配信サービス」利用については、男性のほうが2%程度、女性より回答した人の割合が高い。



Q4 子どもの頃の文化活動参加経験	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
映画館での映画鑑賞	62.2	60.6	63.8	100.0	56.0	66.2	62.6	48.4
映画館での舞台中継等のライブビューイング	2.6	3.7	1.6	33.3	5.4	2.3	0.9	0.0
音楽分野を問わず会場でのコンサート、ライブ、フェスなど	18.2	16.4	19.9	33.3	17.7	18.5	18.5	9.7
会場でのミュージカル、舞台、演劇鑑賞	16.5	12.2	20.7	33.3	17.0	16.5	16.6	3.2
会場でのダンス、バレエ、舞踊鑑賞	7.3	3.6	10.8	33.3	8.0	8.0	6.0	0.0
会場での伝統芸能（歌舞伎など）鑑賞	8.1	6.8	9.4	0.0	8.9	7.2	8.8	6.5
美術館、博物館、展覧会、芸術祭での鑑賞	31.2	28.8	33.3	66.7	27.8	32.2	32.6	25.8
オンデマンド動画配信サービスでの映画視聴	3.1	4.0	2.3	33.3	6.8	2.2	1.4	0.0
上記以外の文化的イベント（スポーツは除く）	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.6	0.0
これまで一度も経験したことがない	29.7	31.8	27.7	0.0	32.5	27.8	29.6	38.7

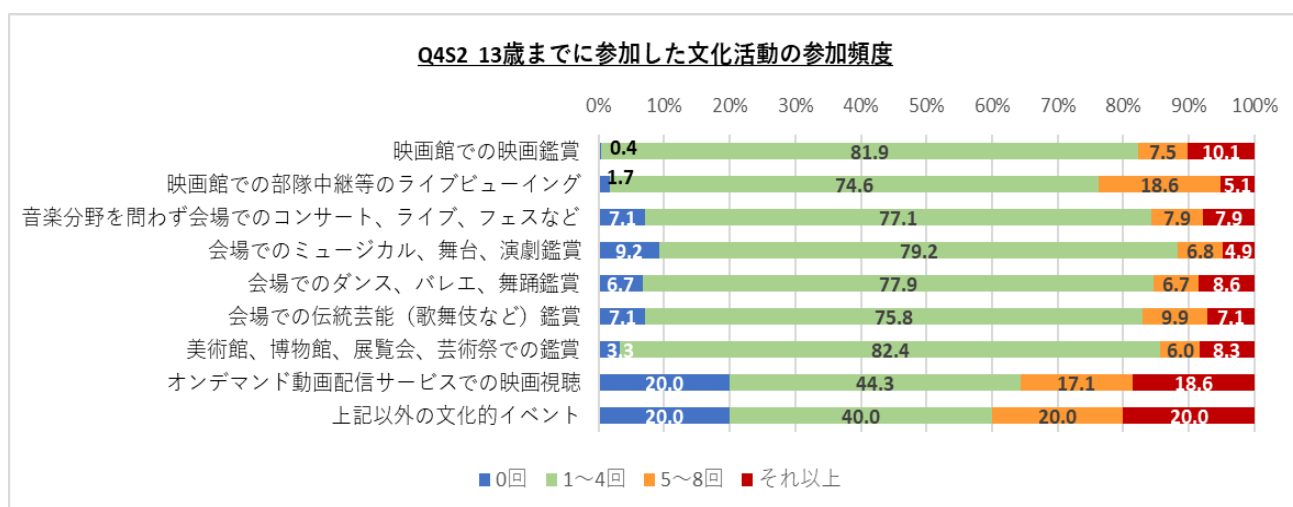
Q4 S2 あなたは、13歳までの子どもの頃に、選択肢に挙げたような文化活動に、1年間に、平均何回参加していましたか。

13歳までの子どもの頃に、選択肢のような文化活動に1年に平均何回参加したか尋ねたところ、全体的に「年に1～4回」という回答が7～8割を占めている。

「映画館での映画鑑賞」「音楽分野を問わず会場でのコンサート、ライブ、フェスなど」「会場でのミュージカル、舞台、演劇鑑賞」「会場でのダンス、バレエ、舞踊鑑賞」「会場での伝統芸能鑑賞」「美術館、博物館、展覧会、芸術祭での鑑賞」など会場に赴き鑑賞するものは「1～4回」と回答した人の割合が70～80%と高い傾向。

それに対して、「オンデマンド動画配信サービスでの映画視聴」は「1～4回」(44.3%)は4割程度、比較的頻度が多い「5～8回」は17.1%、「それ以上」の18.6%を合わせると35.7%に上った。手軽に自宅などで鑑賞できる配信サービスは、比較的、頻度が高い様子がうかがえる。

また会場で鑑賞する中でも「映画館での舞台中継等のライブビューイング」は「5～8回」(18.6%)の回答がほかに比べて高い点も昨今の特長として捉えられる。



Q5 あなたは、現在、どのジャンルで自分で文化的・芸術的活動を実践(創作や出演、習い事、体験活動への参加など)していますか。(複数回答)

現在自分で実践・体験活動参加をしている文化的・芸術的活動のジャンルを尋ねると、「自分で実践したものはない」(48.6%)と約 5 割近くが回答。

実践していると回答した人のうち、回答が多く見られたのは「歴史的な建物や遺跡」(15.5%)、「映画(アニメを除く)」(15.1%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(11.8%)、「美術」(10.4%)などが挙げられている。

年代別では、60代～70代・80代以上で「歴史的な建物や遺跡」(それぞれ 18.5%、19.4%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(それぞれ 13.5%、12.9%)、「美術」(それぞれ 11.1%、16.1%)などの割合が高い。「歴史的な建物や遺跡」に関しては 40～50代も 16.2%と比較的高め。10代・20～30代の若い層は「アニメ映画、メディアアート」(それぞれ 33.3%、11.0%)、40～50代層は「映画(アニメを除く)」(17.6%)、「歴史的な建物や遺跡」(16.2%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(12.0%)等が他の年代や全体と比べて高くなっている。

Q5 現在自分で文化的・芸術的活動を実践している分野	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	7.4	8.0	6.9	0.0	8.5	6.8	7.4	6.5
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	9.6	11.3	8.0	33.3	10.4	9.8	8.7	6.5
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)	10.4	9.4	11.4	0.0	10.1	9.9	11.1	16.1
現代演劇、児童演劇、人形劇	2.4	2.6	2.2	0.0	3.0	2.7	1.4	3.2
ミュージカル	3.0	2.5	3.4	0.0	3.1	3.4	2.4	0.0
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	1.5	1.2	1.7	0.0	1.6	1.7	1.1	0.0
ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊(フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど	2.2	1.8	2.6	0.0	3.1	1.6	2.1	3.2
日本舞踊	0.7	0.9	0.5	0.0	1.2	0.6	0.4	0.0
伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など)	2.7	2.7	2.7	0.0	2.6	2.3	3.4	0.0
演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など)	3.0	3.8	2.2	0.0	2.6	3.1	3.0	3.2
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント	2.7	2.3	3.1	0.0	2.8	2.6	2.7	6.5
食文化の展示、イベント	4.3	4.8	3.8	0.0	4.5	5.4	2.7	3.2
映画(アニメを除く)	15.1	14.0	16.1	33.3	12.5	17.6	14.5	0.0
アニメ映画、メディアアート(コンピュータや映像を活用したアート)など	6.6	7.4	5.8	33.3	11.0	7.5	2.0	0.0
歴史的な建物や遺跡(建造物(社寺・城郭など)、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)	15.5	15.5	15.5	0.0	10.6	16.2	18.5	19.4
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	11.8	12.9	10.8	0.0	9.4	12.0	13.5	12.9
地域の伝統的な芸能や祭り(民俗文化財)	4.3	5.3	3.5	0.0	4.0	4.3	4.8	0.0
芸術祭、音楽フェス	3.8	4.1	3.4	33.3	3.8	4.3	3.0	0.0
自分で実践したものはない	48.6	49.4	47.9	0.0	44.5	48.6	52.1	51.6
その他	0.6	0.5	0.7	0.0	0.2	0.5	1.0	0.0
分からない	14.0	13.6	14.3	33.3	20.7	13.3	9.5	9.7

Q5 S2	現在、実践している活動の具体的内容について、当てはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答)
----------	--

自分で文化的・芸術的活動を実践しているジャンルについてどのような参加の仕方をしているのか尋ねた。全体的に30%以上の回答が得られたのは「祭りや行事への参加」で8ジャンル、「文化芸術を楽しむための旅行」で4ジャンル、「習い事の受講」で3ジャンル、「舞台公演・展覧会・文化芸術団体等のサポート・ボランティア」が1ジャンルとなっている。

自らが「舞台公演への出演」「創作活動」、「SNS投稿」「劇場の定期会員、アーティストのファンクラブ、サブスクリプション会員」「寄付(クラウドファンディングなど)を通じた支援」などは3割に満たない。

「祭りや行事への参加」が多いジャンルは、「地域の伝統的な芸術や祭り」(53.6%)、「食文化の展示、イベント」(50.0%)、「演芸(落語、講談、浪曲、漫才、コント、奇術・手品、大道芸、太神楽)」(40.9%)、「花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント」(39.3%)、「日本舞踊」(37.5%)など。

「文化や芸術を楽しむための旅行」が多いジャンルは、「歴史的な建物(建造物、社寺・城郭など)、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財」(57.1%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(56.4%)、「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」(33.9%)、「地域の伝統的な芸能や祭り」(33.0%)など。

「習い事の受講」が多いジャンルは、「ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊(フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど」(55.1%)、「花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント」(34.4%)など。

「舞台公演・展覧会・文化芸術団体等のサポート・ボランティア」が多いジャンルは、「日本舞踊」(37.5%)など。

性別・年代別で大きな特長は見られないが、「習い事の受講」の「ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンスなど」では女性が多く(女性66.7%、男性36.8%)や「花展、茶会などの展示、イベント」で女性の割合が高い様子が見られた(女性38.9%、男性28.0%)。

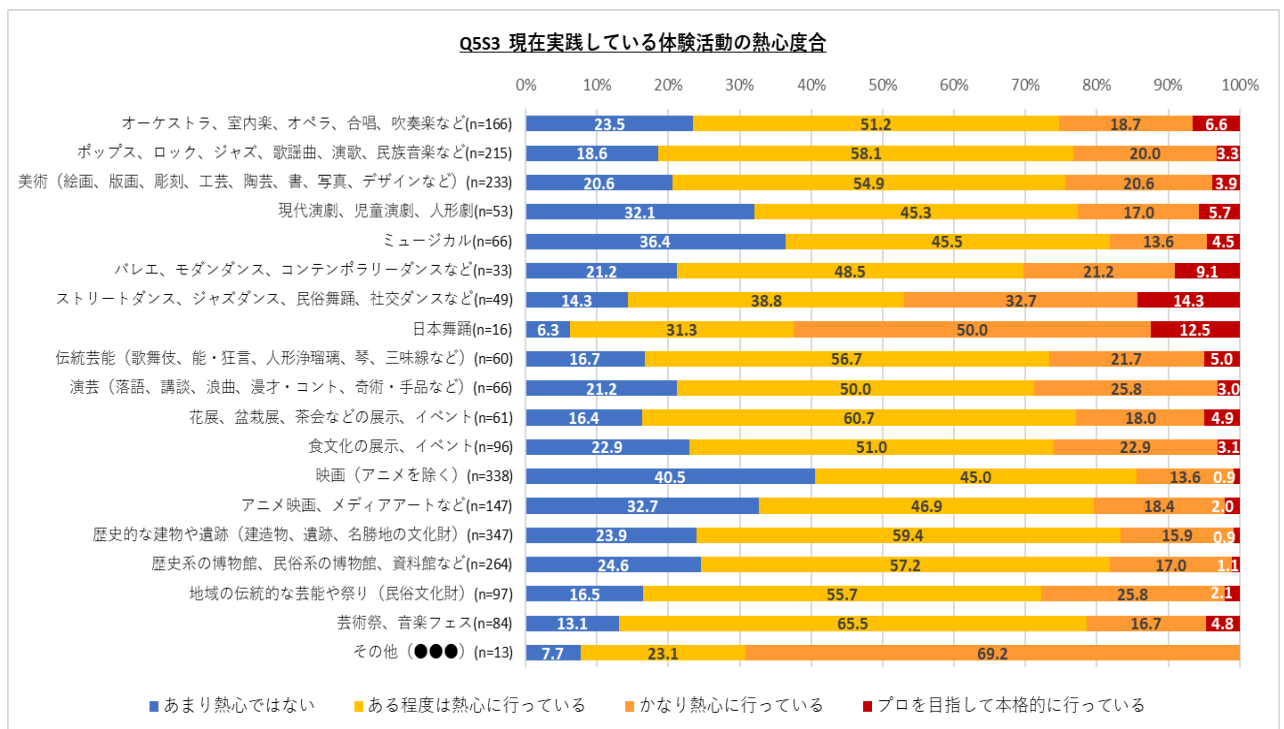
I —1. 文化芸術活動における関与

Q582 実施している活動の具体的内容	全体	舞台公演への出演 など	文化や芸術を美 しむための旅行	創作活動	習い事の受講	舞台公演・展覧 会・文化芸術団体 等のサポート・ボ ランティア	SNS投稿	劇場の定期会員、 アーティストのフ ァンクラブ、サブス クリプション会員	祭りや行事への 参加	寄付（クラウ ドファンディ ングなど）を 通じた支援	その他
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など (n=166)	100.0	25.3	18.1	12.0	15.7	13.3	6.0	9.6	23.5	3.0	12.7
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など (n=215)	100.0	7.0	14.4	12.6	11.2	7.4	10.2	14.0	25.1	3.3	23.3
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイ ン、建築、服飾など） (n=233)	100.0	3.4	33.9	27.5	16.3	6.0	13.3	3.9	18.9	2.6	13.3
現代演劇、児童演劇、人形劇 (n=53)	100.0	9.4	15.1	15.1	5.7	11.3	11.3	22.6	34.0	9.4	9.4
ミュージカル (n=66)	100.0	9.1	21.2	13.6	15.2	4.5	10.6	13.6	22.7	1.5	15.2
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど (n=33)	100.0	15.2	21.2	15.2	33.3	9.1	12.1	6.1	21.2	6.1	6.1
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等）、ジャズダ ンス、民俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等）、社 交ダンスなど (n=49)	100.0	20.4	4.1	18.4	55.1	18.4	8.2	6.1	24.5	6.1	10.2
日本舞踊 (n=16)	100.0	18.8	18.8	18.8	25.0	37.5	12.5	18.8	37.5	12.5	0.0
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺 八、雅楽、声明など） (n=60)	100.0	15.0	23.3	5.0	18.3	13.3	10.0	10.0	31.7	3.3	5.0
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道 芸、大神楽など） (n=66)	100.0	12.1	18.2	7.6	13.6	15.2	10.6	4.5	40.9	1.5	10.6
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント (n=61)	100.0	1.6	21.3	16.4	34.4	8.2	13.1	4.9	39.3	6.6	3.3
食文化の展示、イベント (n=96)	100.0	3.1	25.0	8.3	12.5	6.3	11.5	6.3	50.0	4.2	10.4
映画（アニメを除く） (n=338)	100.0	3.0	10.7	1.2	1.8	3.6	10.7	9.2	18.0	3.0	48.2
アニメ映画、メディアアート（コンピュータや映像を活用し たアート）など (n=147)	100.0	2.7	15.0	6.8	1.4	4.8	18.4	10.2	19.7	0.0	38.1
歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名 勝地（庭園など）の文化財） (n=347)	100.0	1.7	57.1	2.6	4.0	4.3	5.8	2.6	20.5	4.0	17.0
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など (n=264)	100.0	1.5	56.4	2.3	2.7	3.4	9.5	2.7	18.9	4.9	16.7
地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財） (n=97)	100.0	2.1	33.0	8.2	6.2	5.2	9.3	5.2	53.6	9.3	7.2
芸術祭、音楽フェス (n=84)	100.0	7.1	25.0	11.9	4.8	7.1	13.1	14.3	36.9	4.8	9.5
その他（●●●） (n=13)	100.0	15.4	15.4	23.1	38.5	7.7	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4

Q5 S3 現在、実践(創作や出演、習い事、体験活動への参加など)していると回答した、文化的・芸術的活動は、どの程度の熱心さで行っていますか。

現在実践している文化的・芸術的活動の熱心さについて尋ねると、「ある程度熱心に行っている」と回答した人のボリュームが多く平均的に40%~60%程度見られる。

特に「熱心に行っている(「かなり熱心に行っている」「プロを目指して本格的に行っている)」のTOP2の回答が多いジャンルは「日本舞踊」(62.5%)、「ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊(フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど」(47.0%)。但し、実践している人の母数は少ない。



I—2. 文化芸術の鑑賞活動

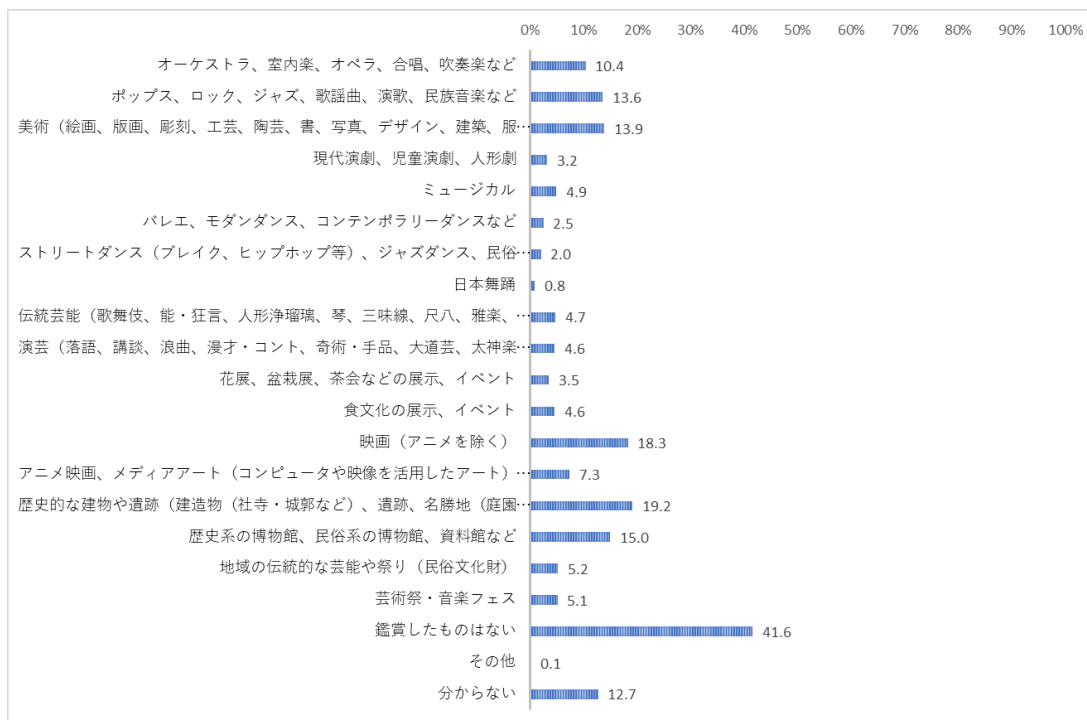
Q6 あなたは現在、TV、CD、動画視聴以外で、どのような文化・芸術鑑賞行動(コンサート、公演、展覧会等での鑑賞)をしていますか。(複数回答)

現在、どのような文化・芸術鑑賞をしているか尋ねたところ、「鑑賞したものはない」と回答した割合は41.6%。

「鑑賞している」と回答した人の割合が最も高いのは「歴史的な建物や遺跡(建造物、社寺、城郭など)、名勝地(庭園など)の文化財」(19.2%)、「映画(アニメを除く)」(18.3%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」15.0%。次いで「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」(13.9%)、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」(13.6%)。

性別では、女性の回答した人の割合が多い主なジャンルは「ミュージカル」(男性2.6%、女性7.0%)、「映画(アニメを除く)」(男性16.6%、女性20.0%)など。

年代別では、ジャンル全体的に、若い層より、60～70代、80代以上の中高齢層の回答した人の割合が高くなっている。中でも多いジャンルは「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」(各々17.9%、41.9%)、「歴史的な建物や遺跡(建造物、社寺・城郭など)、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財」(各々26.6%、35.5%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(各々21.5%、25.8%)が上位。60～70代、80代以上の中高齢層より回答した人の割合が多いジャンルは、40～50代で「映画(アニメを除く)」(20.1%)、20～30代では「アニメ映画、メディアアート(コンピュータや映像を活用したアート)など」(11.7%)が挙げられる。

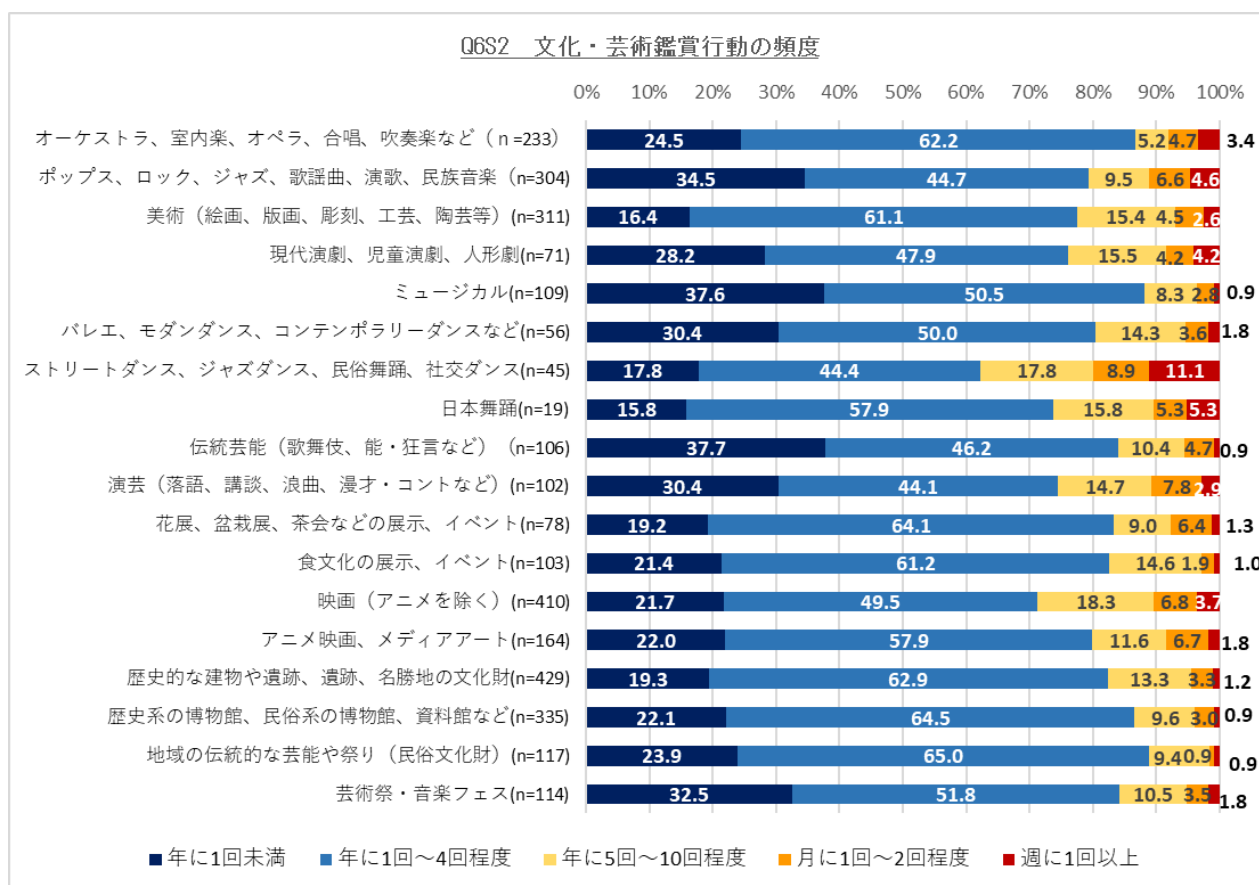


I—2. 文化芸術の鑑賞活動

Q6 現在、文化・芸術鑑賞行動している分野	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
		全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	10.4	11.1	9.8	0.0	9.2	8.0	13.5	35.5
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、?族?楽など	13.6	13.3	13.9	33.3	10.6	15.2	13.7	16.1
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	13.9	12.6	15.1	33.3	10.8	11.8	17.9	41.9
現代演劇、児童演劇、人形劇	3.2	2.9	3.5	0.0	3.3	3.1	3.3	0.0
ミュージカル	4.9	2.6	7.0	0.0	3.7	4.9	5.7	9.7
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	2.5	1.7	3.3	0.0	2.8	2.2	2.7	3.2
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等）、ジャズダンス、?俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等）、社交ダンスなど	2.0	2.0	2.0	0.0	3.0	1.6	1.7	3.2
日本舞踊	0.8	0.7	1.0	0.0	0.9	0.8	0.9	3.2
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声楽など）	4.7	3.8	5.6	0.0	2.3	4.2	7.1	12.9
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）	4.6	5.0	4.2	0.0	2.3	4.8	6.0	9.7
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント	3.5	2.1	4.8	0.0	2.8	2.8	4.4	16.1
食?化の展示、イベント	4.6	4.6	4.6	0.0	5.6	4.5	3.8	6.5
映画（アニメを除く）	18.3	16.6	20.0	0.0	15.0	20.1	19.2	9.7
アニメ映画、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）など	7.3	8.8	5.9	0.0	11.7	8.4	2.7	0.0
歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の?化財）	19.2	19.0	19.4	0.0	11.5	17.8	26.6	35.5
歴史系の博物館、?俗系の博物館、資料館など	15.0	15.7	14.3	0.0	9.2	13.3	21.5	25.8
地域の伝統的な芸能や祭り（?俗?化財）	5.2	5.3	5.2	0.0	4.0	4.1	7.4	12.9
芸術祭・音楽フェス	5.1	5.2	5.0	33.3	5.9	5.2	4.3	3.2
鑑賞したものはない	41.6	43.0	40.3	0.0	41.0	44.4	39.3	25.8
その他	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0
分からない	12.7	12.7	12.8	0.0	20.2	12.0	8.1	3.2

Q6 あなたが選択した文化・芸術鑑賞行動(コンサート、公演、展覧会等での鑑賞)は、現在のどの程度の頻度で行っていますか。

文化・芸術鑑賞行動の頻度を尋ねたところ、全体的に多いのは「年に1～4回程度」。「年に1回未満」を合わせると、各々のジャンルで70～80%を占め、頻度はそう多くないことがうかがえる。「月に1回～2回程度」「週に1回以上」と頻度が高い回答が見られたジャンルは、「ストリートダンス、ジャズダンス、民族舞踊、社交ダンスなど」が20.0%（「月に1回～2回程度」8.9%「週に1回以上」11.1%）、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」が11.2%（「月に1回～2回程度」6.6%「週に1回以上」4.6%）など、ダンス系と音楽系のジャンルで頻度が高い様子。次いで「演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など)」が10.8%（「月に1回～2回程度」7.8%「週に1回以上」2.9%）、「映画(アニメを除く)」が10.5%（「月に1回～2回程度」6.8%「週に1回以上」3.7%）、「日本舞踊」が10.6%（「月に1回～2回程度」5.3%「週に1回以上」5.3%）など。



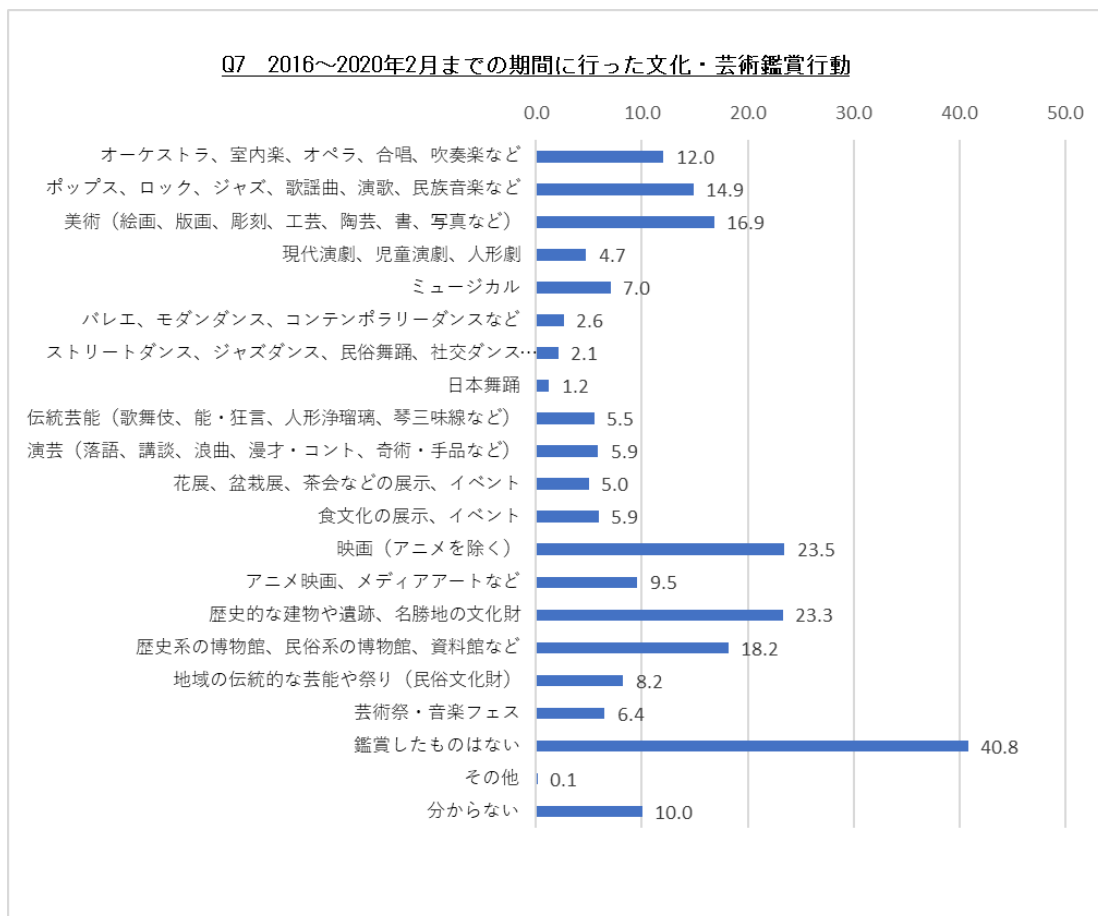
Q7 あなたが、2016年～2020年2月(新型コロナウイルス感染症の拡大前)までに行った、TV、CD、動画視聴以外での文化・芸術鑑賞行動(コンサート、公演、展覧会等での鑑賞)を以下の中からすべてお選びください。(複数回答)

2016年～2020年2月までに行った、文化・芸術鑑賞行動を尋ねたところ、「鑑賞したものはない」が40.8%。

「鑑賞行動を行った」中で最も回答した人の割合が高いのは「映画(アニメを除く)」(23.5%)、次いで「歴史的な建物や遺跡(建造物(社寺・城郭など)、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)」(23.3%)、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(18.2%)などが挙がる。

性別では、「アニメ映画、メディアアートなど」で男性が女性を上回った以外は、ほとんどの項目で女性が上回る様子が見られる。

年代別では他の年代に比べ、80代以上が全体的に「鑑賞行動をした」と回答した人の割合が高い。60～70代も次いで高い傾向があり、「美術」、「歴史的な建物や遺跡、名勝地の文化財」、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」などのジャンルが特に高くなっている。

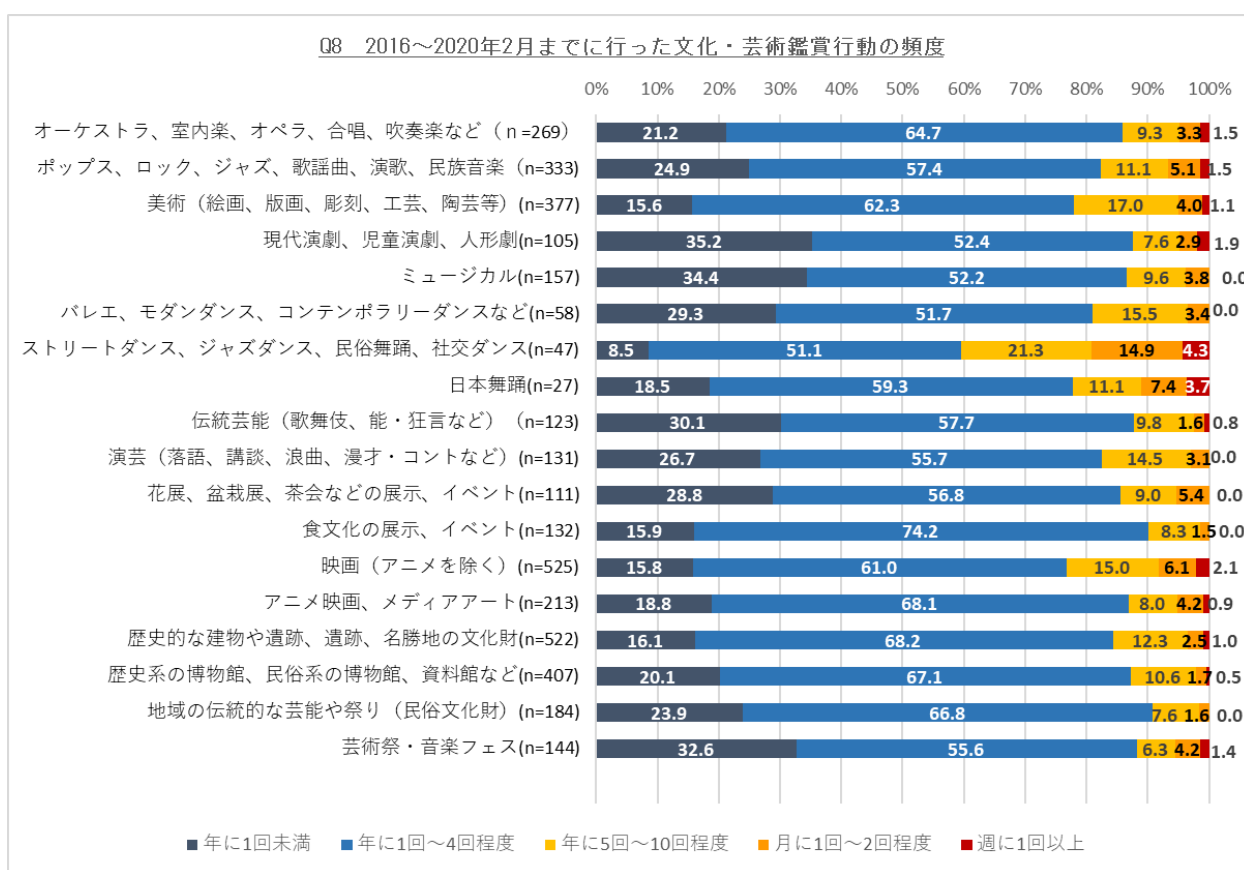


I—2. 文化芸術の鑑賞活動

Q7 2016～2020年2月の期間に行った文化・芸術鑑賞行動	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	12.0	11.0	13.0	0.0	8.9	10.6	15.9	25.8
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、?族?案など	14.9	12.4	17.2	33.3	12.0	16.9	14.7	12.9
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	16.9	13.7	19.8	33.3	12.3	15.7	20.9	41.9
現代演劇、児童演劇、人形劇	4.7	2.9	6.4	0.0	2.4	5.7	5.4	0.0
ミュージカル	7.0	3.6	10.2	0.0	5.0	6.7	9.2	3.2
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	2.6	1.3	3.8	0.0	2.8	2.3	2.8	3.2
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等）、ジャズダンス、民俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等）、社交ダンスなど	2.1	1.7	2.5	0.0	3.1	1.8	1.6	3.2
日本舞踊	1.2	0.8	1.6	0.0	1.2	0.9	1.6	3.2
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など）	5.5	3.9	7.0	0.0	2.6	4.8	8.3	19.4
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）	5.9	6.0	5.7	0.0	3.0	5.9	7.8	12.9
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント	5.0	2.9	6.9	0.0	2.8	4.5	6.7	19.4
食文化の展示、イベント	5.9	4.6	7.1	0.0	5.4	7.0	4.7	9.7
映画（アニメを除く）	23.5	19.9	26.8	0.0	20.7	24.3	24.6	25.8
アニメ映画、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）など	9.5	10.6	8.5	0.0	13.7	11.0	4.6	0.0
歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）	23.3	21.6	25.0	0.0	13.4	22.4	32.0	41.9
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	18.2	16.7	19.6	0.0	11.5	17.5	24.0	32.3
地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	8.2	7.3	9.1	0.0	4.9	8.2	10.7	16.1
芸術祭・音楽フェス	6.4	5.6	7.2	0.0	6.4	7.4	5.4	3.2
鑑賞したものはない	40.8	45.8	36.1	33.3	39.8	42.5	40.1	25.8
その他	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0
分からない	10.0	10.0	10.0	0.0	16.5	9.9	5.0	6.5

Q8 あなたが、2016年～2020年2月(新型コロナウイルス感染症の拡大前)までに行った、文化・芸術鑑賞行動(コンサート、公演、展覧会等での鑑賞)について、どの程度の頻度で行っているかをお答えください。

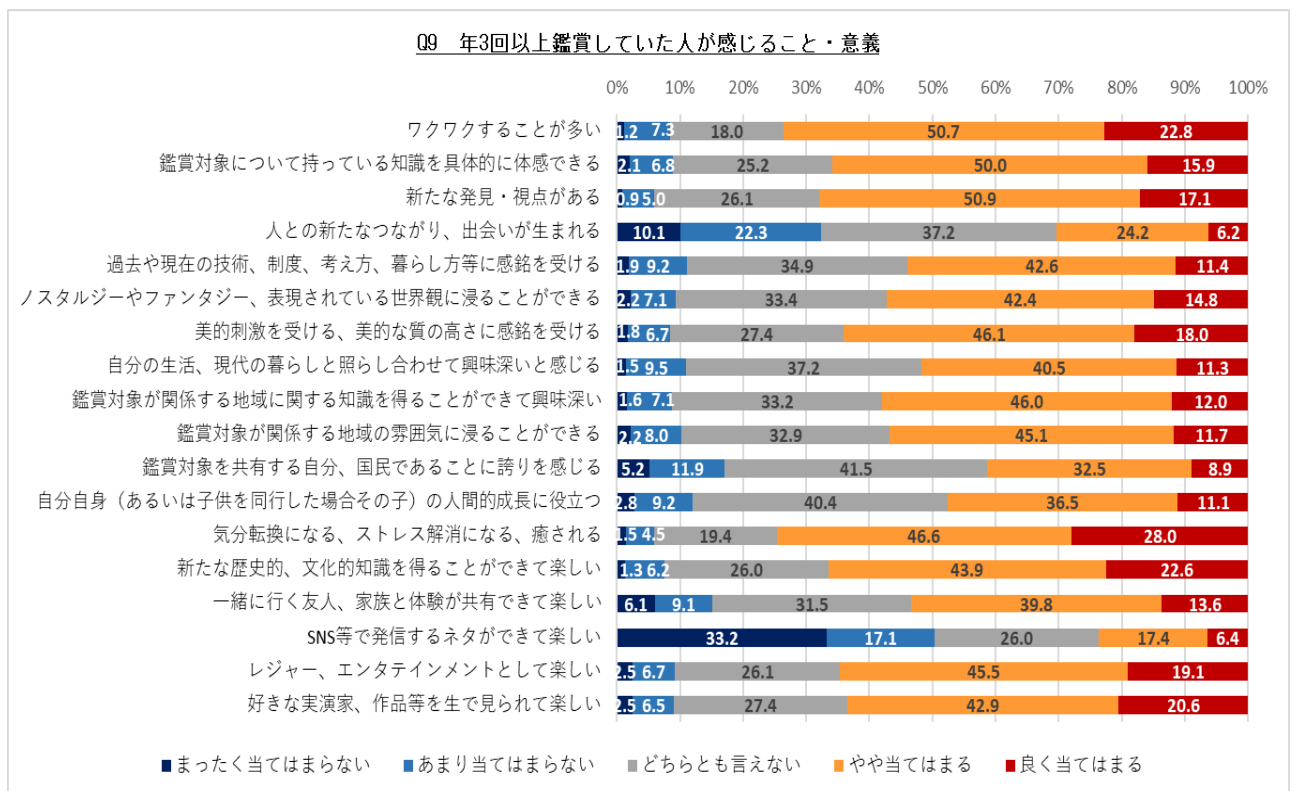
2016～2020年2月までの文化・芸術鑑賞行動の頻度を尋ねたところ、「頻度が高い(「年に5回～10回程度」「月に1～2回程度」「週に1回以上)」様子が見られたジャンルは、「ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊(フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど」が40.5%、「映画(アニメを除く)」が23.2%、「日本舞踊」が22.2%、「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」22.1%などが挙げられる。



【何らかの芸術・文化・文化遺産を年3回以上鑑賞していたと回答した人】

Q9 鑑賞をした際に感じること、意義として次のものにどれくらい当てはまりますか。

何らかの芸術・文化、文化遺産を年3回以上鑑賞していたと回答した人は674名で、全体の30.1%。その人達に鑑賞をした際に感じること、意義を尋ねたところ、「当てはまる(「やや当てはまる」「良く当てはまる)」との回答した割合が多かったのは、「気分転換になる、ストレス解消になる、癒される」(74.6%)、「ワクワクすることが多い」(73.5%)、「新たな発見・視点がある」(68.0%)が上位に挙がる。次いで「新たな歴史的、文化的知識を得ることができて楽しい」(66.5%)、「鑑賞対象について持っている知識を具体的に体感できる(65.9%)」、「レジャー、エンタテインメントとして楽しい」(64.6%)、「好きな実演家、作品等を生で見られて楽しい」(63.5%)などが挙がる。



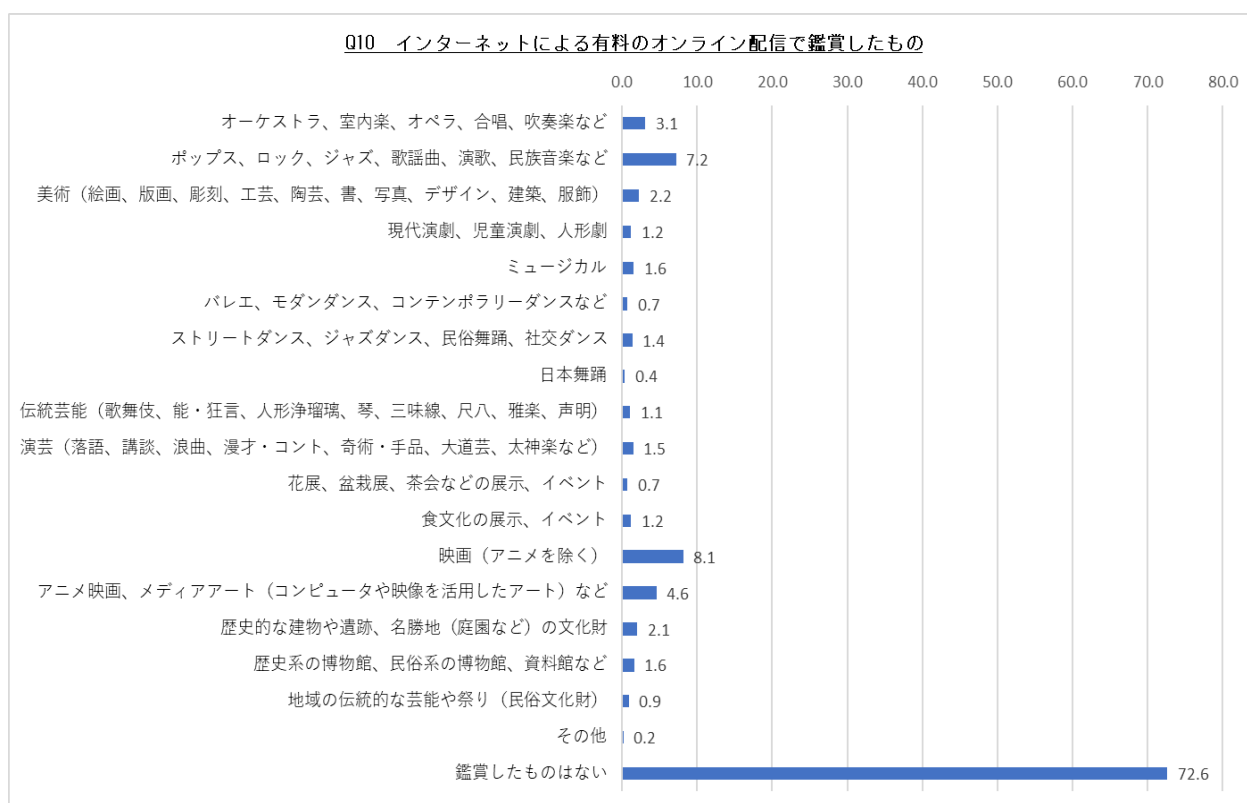
Q10 2020年3月頃より、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、インターネットによる有料(月額またはチケット購入等)のオンライン配信で鑑賞したものはありますか。この中からいくつでもあげてください。

インターネットによる有料のオンライン配信で鑑賞したものを尋ねたところ、「鑑賞したものはない」72.6%。

鑑賞した中で回答した人の割合が高く見られたのは「映画(アニメを除く)」8.1%、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽」7.2%、「アニメ映画、メディアアート(コンピュータや映像を活用したアート)」4.6% など。

性別では「鑑賞したものはない」と回答した人の割合は女性が多め(男性 70.0%、女性 75.1%)。年代別では60～70代と80代以上が「鑑賞したものはない」と回答した人の割合が多め。(60～70代は80.2%、80代以上は90.3%)

「映画(アニメを除く)」「アニメ映画、メディアアート」と回答した割合が多いのは男性、年代別では20～30代。男性は「映画」11.0%、「アニメ映画、メディアアート」7.1%。20～30代は「映画」9.9%、「アニメ映画、メディアアート」8.3%で、他と比べて高い。



I—2. 文化芸術の鑑賞活動

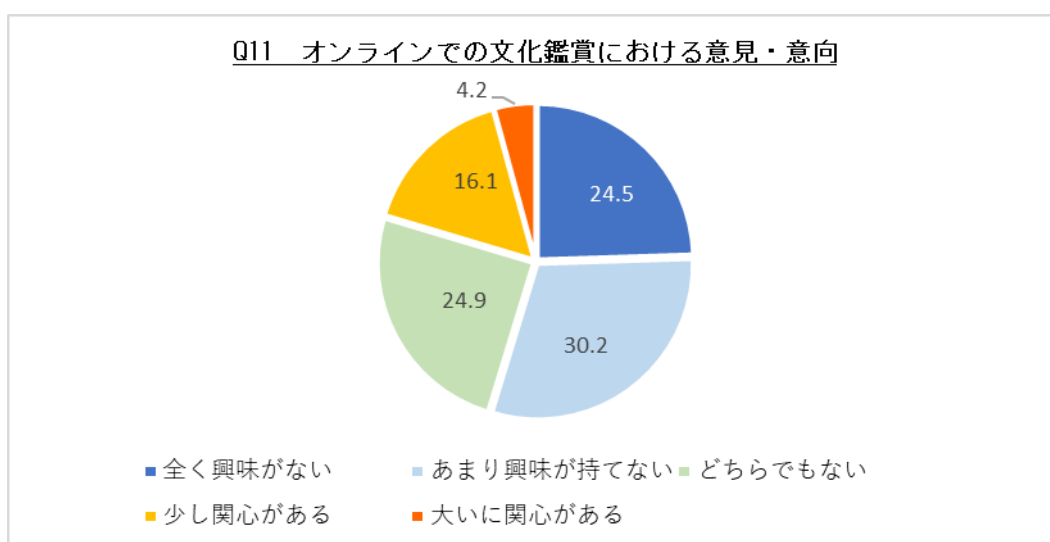
Q10 インターネットによる有料のオンライン配信で鑑賞したもの	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	3.1	3.9	2.4	0.0	5.4	2.6	2.1	0.0
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	7.2	7.2	7.2	66.7	9.4	7.4	5.3	0.0
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	2.2	3.4	1.1	0.0	5.2	1.4	1.0	0.0
現代演劇、児童演劇、人形劇	1.2	1.4	1.0	0.0	1.7	1.2	0.7	0.0
ミュージカル	1.6	1.3	1.8	0.0	2.8	1.0	1.4	0.0
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	0.7	0.9	0.5	0.0	2.3	0.2	0.1	0.0
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等）、ジャズダンス、民俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等）、社交ダンスなど	1.4	2.2	0.6	0.0	3.8	0.5	0.6	0.0
日本舞踊	0.4	0.6	0.3	0.0	0.9	0.2	0.3	0.0
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など）	1.1	1.2	1.0	0.0	1.9	0.5	1.1	0.0
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）	1.5	1.9	1.0	0.0	1.6	1.4	1.3	6.5
花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント	0.7	1.2	0.3	0.0	2.1	0.4	0.0	0.0
食文化の展示、イベント	1.2	1.5	1.0	0.0	2.6	1.3	0.0	0.0
映画（アニメを除く）	8.1	11.0	5.5	0.0	9.9	7.9	7.1	6.5
アニメ映画、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）など	4.6	7.1	2.3	0.0	8.3	4.9	1.4	0.0
歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）	2.1	3.2	1.0	0.0	2.8	1.8	1.7	3.2
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	1.6	2.5	0.8	0.0	2.3	1.3	1.6	0.0
地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	0.9	1.6	0.3	0.0	1.7	0.9	0.3	0.0
その他	0.2	0.0	0.3	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0
鑑賞したものはない	72.6	70.0	75.1	33.3	60.9	73.7	80.2	90.3
分からない	7.7	7.5	8.0	0.0	12.5	8.1	3.6	3.2

Q11 オンラインでの文化鑑賞について、どのような意見、意向をお持ちですか。

オンラインでの文化鑑賞における意見・意向を尋ねたところ、「関心がある(「大いに関心がある」「少し関心がある」)」と回答した人は 20.3%。

性別では、男性のほうが「関心がある(「大いに関心がある」「少し関心がある」)」と回答した人の割合が高い(20.9%)。

年代別で、「関心がある(「大いに関心がある」「少し関心がある」)」と回答した人の割合は、10代(33.3%)、20～30代(27.5%)の若い層が高く、20～30代は TopBox が 8.5%で他の年代に比べて高い。40～50代(18.4%)、60～70代(16.8%)、80代以上(25.8%、Top2のみ)。



Q11 オンラインでの文化鑑賞における意見・意向	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全く興味がない	24.5	24.3	24.7	0.0	24.5	28.1	20.3	12.9
あまり興味が持てない	30.2	31.1	29.4	33.3	22.1	26.5	41.4	38.7
どちらでもない	24.9	23.7	26.0	33.3	25.9	26.9	21.5	22.6
少し関心がある	16.1	15.9	16.3	33.3	19.0	15.2	14.5	25.8
大いに関心がある	4.2	5.0	3.6	0.0	8.5	3.2	2.3	0.0

Q12 オンラインでの文化鑑賞について、次の意見に当てはまりますか。

オンラインでの文化鑑賞について意見を尋ねたところ、「当てはまる(「良く当てはまる」「やや当てはまる」)」と回答した人の割合が高く見られた意見は「交通費などがかからず出費が少なく楽しめるのでよい」48.3%(12.1% 36.2%)、「周囲を気にせず自分のペースやデバイス(スマホなど)で鑑賞できるのでよい」44.4%(11.7% 32.7%)、「時間や回数など物理的な制約がなく鑑賞できてよい」43.4%(10.1% 33.3%)、「これまで鑑賞したことのないジャンルを気軽に試すことができる」39.5%(7.1% 32.4%)などのメリットが上位に挙がる。

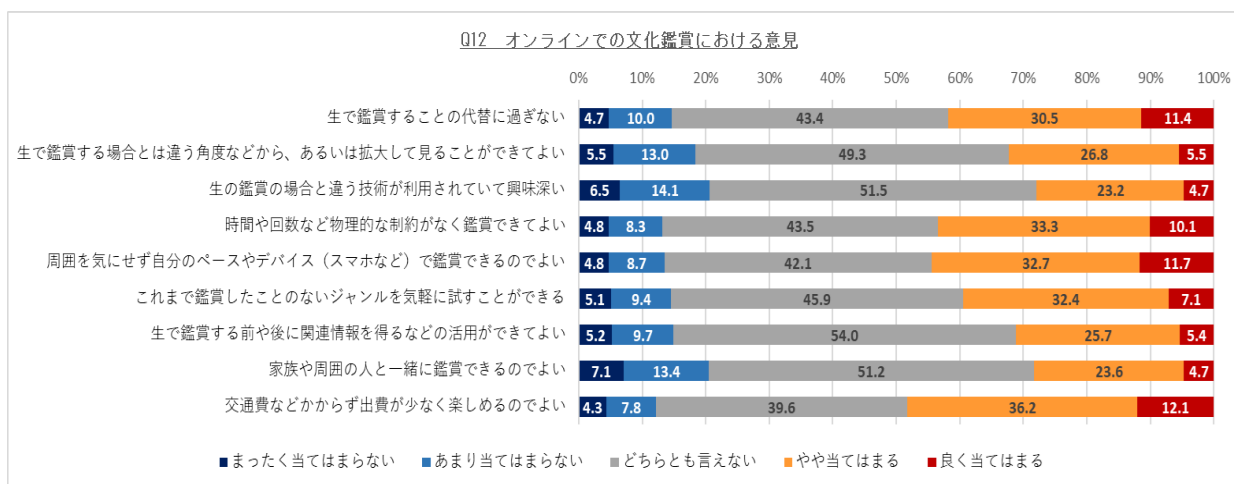
「生で鑑賞することの代替に過ぎない」というネガティブな意見も 41.9%(11.4% 30.5%)。

性別では、全ての意見において、女性が「当てはまる(「良く当てはまる」「やや当てはまる」)」と回答した人の割合が男性を上回った。

年代別では、40～50代、60～70代が「当てはまる」との回答が他の年代に比べて特に高いのは「時間や回数など物理的な制約がなく鑑賞できてよい」(各々44.0%、46.1%)。

80代以上が特に高いのは「生で鑑賞することの代替に過ぎない」(64.5%)、「周囲を気にせず自分のペースやデバイス(スマホなど)で鑑賞できるのでよい」(58.1%)など。

20～30代は「生で鑑賞することの代替に過ぎない」(34.6%)について「当てはまる(「良く当てはまる」「やや当てはまる」)」と回答した人の割合が低め。



I—2. 文化芸術の鑑賞活動

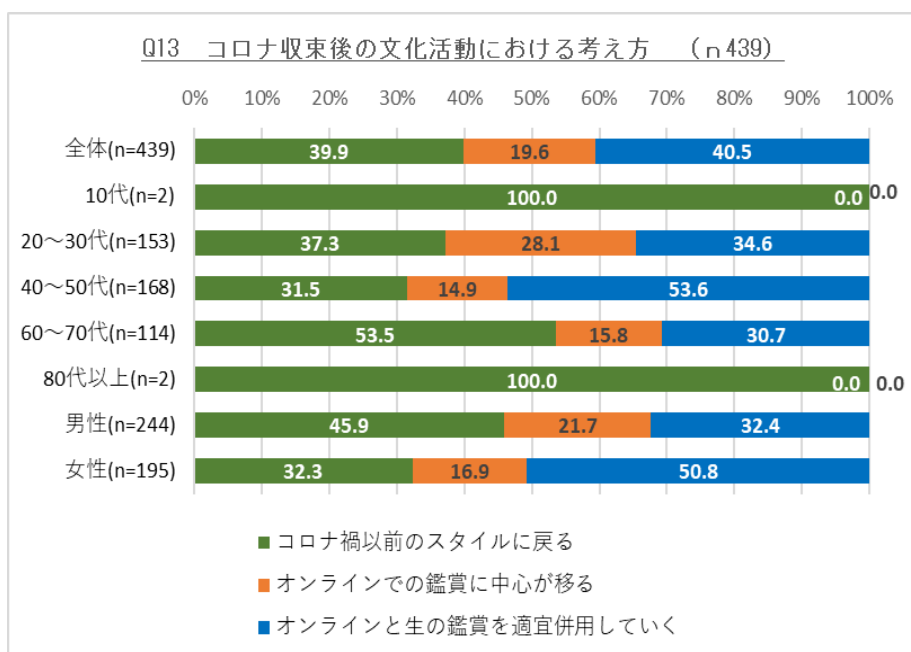
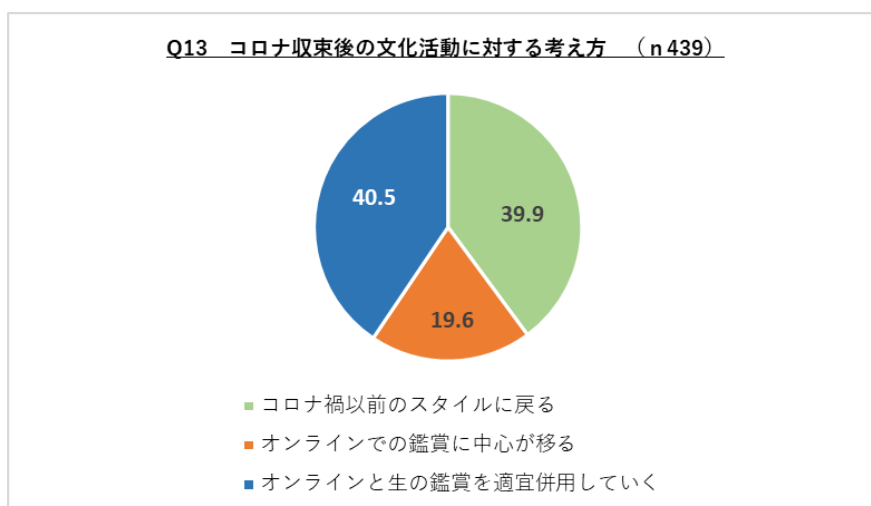
	Q12 オンラインでの文化鑑賞における意見 「当てはまる」「良く当てはまる」「やや当てはまる」の回答割合	全体 (n=2237)	性別		年代別				
			男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1	生で鑑賞することの代替に過ぎない	41.9	38.9	44.7	100.0	34.6	40.3	48.6	64.5
2	生で鑑賞する場合は違う角度などから、あるいは拡大して見ることでよい	32.3	30.4	34.0	66.7	28.7	34.1	32.3	41.9
3	生の鑑賞の場合と違う技術が利用されていて興味深い	27.9	25.3	30.3	33.3	28.0	28.3	26.7	38.7
4	時間や回数など物理的な制約がなく鑑賞できてよい	43.4	40.3	46.4	33.3	39.7	44.0	46.1	35.5
5	周囲を気にせず自分のペースやデバイス（スマホなど）で鑑賞できるのでよい	44.4	40.8	47.7	66.7	43.3	44.8	44.1	58.1
6	これまで鑑賞したことのないジャンルを気軽に試すことができる	39.5	35.6	43.2	66.7	34.8	40.4	42.0	41.9
7	生で鑑賞する前や後に関連情報を得るなどの活用ができてよい	31.2	27.8	34.3	33.3	27.0	32.6	32.1	41.9
8	家族や周囲の人と一緒に鑑賞できるのでよい	28.3	23.8	32.6	33.3	29.7	29.4	25.6	32.3
9	交通費などかからず出費が少なく楽しめるのでよい	48.3	44.7	51.6	100.0	46.6	47.8	49.8	54.8

Q13 あなたの、「コロナ収束後の文化活動に対する考え方」について、最も近いものをお選びください。

コロナ収束後の文化活動について尋ねたところ、「オンラインと生の鑑賞を適宜併用していく」40.5%と最も高い。

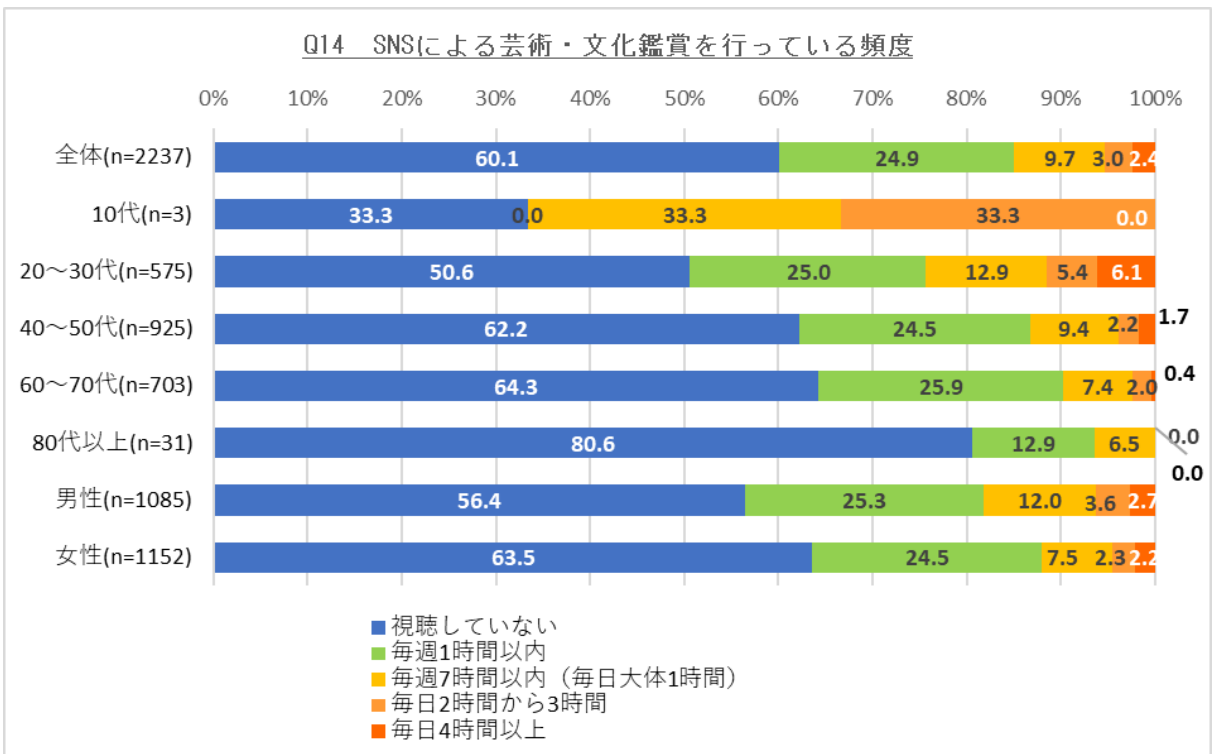
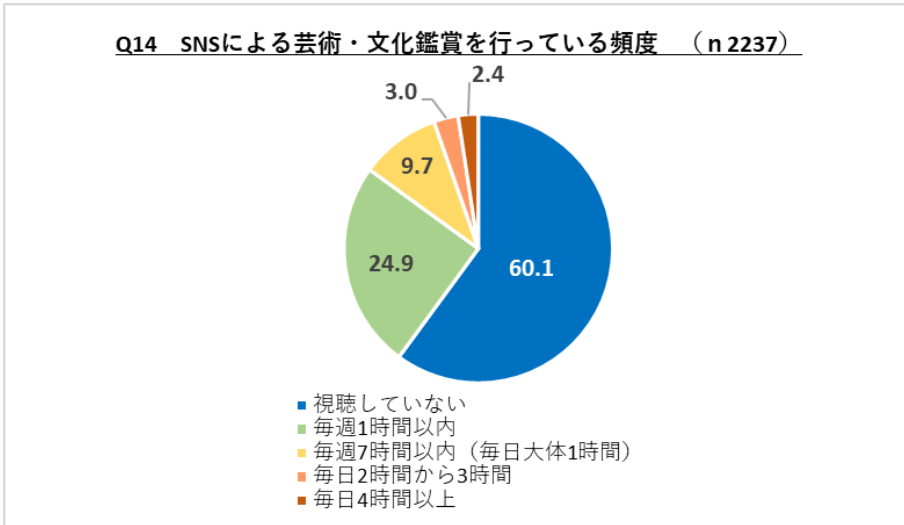
性別では、女性が「オンラインと生の鑑賞を適宜併用していく」50.8%と半数を超えた。

年代別では、10代、80代以上は「コロナ禍以前のスタイルに戻る」100%。40～50代は「オンラインと生の鑑賞を適宜併用していく」53.6%で半数を超え、「コロナ禍以前のスタイルに戻る」は31.5%。



Q14 あなたは、YouTube、Twitter、インスタグラムといった SNS による芸術・文化鑑賞をどの程度行っていますか。

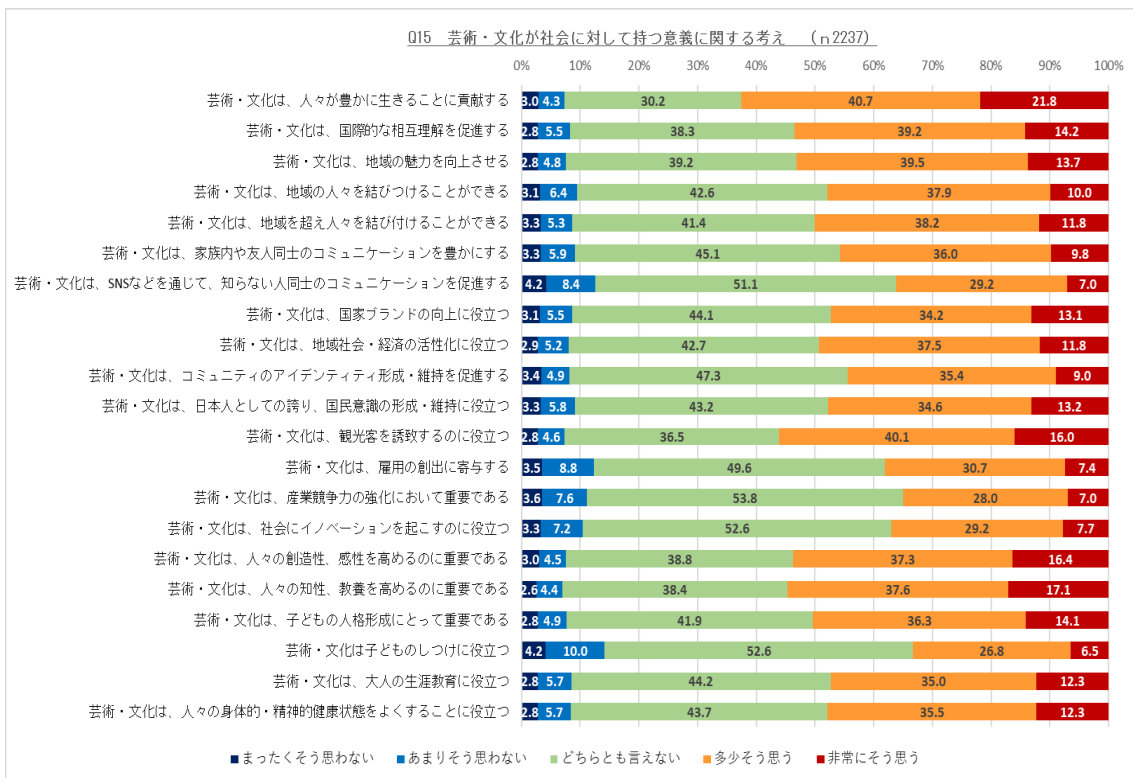
YouTube、Twitter、インスタグラム等の SNS による芸術・文化鑑賞を行う頻度を尋ねたところ、6割の人は「視聴していない」と回答した。「毎日(1時間～4時間以上)行っている」と回答したのは15.1%。年代別で「毎日行っている」と回答したのは「10代」(66.6% ※母数が少ない)と「20～30代」(24.4%)が他の年代に比べて高い。性別では男性のほうが「毎日行っている」頻度が高い(18.3%)。



I—3. 文化芸術における社会的意義

Q15 芸術・文化が社会に対して持つ意義として、以下のような点があげられます。それぞれに対してどのように思いますか。

芸術・文化が社会に対して持つ意義について尋ねたところ、「そう思う(「非常にそう思う」「多少そう思う)」という回答が高く挙がったのは、1位「芸術・文化は、人々が豊かに生きること貢献する」62.5%(21.8% 40.7%)、2位は「芸術・文化は観光客を誘致するのに役立つ」56.1%(16.0% 40.1%)、3位は「教養を高めるのに重要である」54.7%(17.1% 37.6%)が上位に挙がる。性別では、女性が、項目すべての意義について、「そう思う」「非常にそう思う」「多少そう思う」と回答した人の割合が男性を10%以上上回っている。年代別では、20～30代が全てにおいて回答の割合が50%に満たない。それに対して60～70代と80代以上は「そう思う(「非常にそう思う」「多少そう思う)」の回答した割合が60～80%と高い傾向が見られる。年代が高くなるにつれて、「芸術・文化が社会に対して意義を持つ」という価値を感じているのがうかがえる。



I—3. 文化芸術における社会的意義

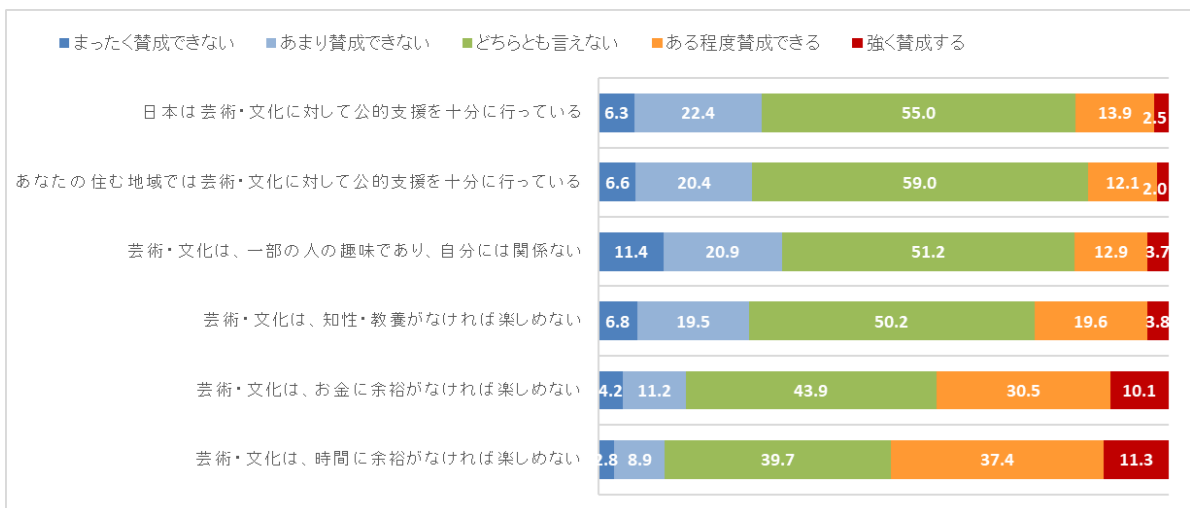
	Q15 芸術・文化が社会に対して持つ意義 「そう思う」（「非常にそう思う」「多少そう思う」） の回答割合	全体 (n=2237)	性別		年代別				
			男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
			1	芸術・文化は、人々が豊かに生きることには貢献する	62.5	56.8	68.0	100.0	49.6
2	芸術・文化は、国際的な相互理解を促進する	53.5	48.0	58.6	100.0	41.4	52.0	64.0	77.4
3	芸術・文化は、地域の魅力を向上させる	53.2	47.8	58.2	100.0	41.7	51.7	63.2	80.6
4	芸術・文化は、地域の人々を結びつけることができる	47.8	42.4	53.0	33.3	38.3	46.4	57.0	61.3
5	芸術・文化は、地域を超え人々を結びつけることができる	50.0	44.4	55.3	33.3	41.0	48.6	58.5	67.7
6	芸術・文化は、家族内や友人同士のコミュニケーションを豊かにする	45.8	40.4	50.9	66.7	36.2	36.2	45.5	53.5
7	芸術・文化は、SNSなどを通じて、知らない人同士のコミュニケーションを促進する	36.2	31.7	40.5	66.7	36.5	37.5	33.9	41.9
8	芸術・文化は、国家ブランドの向上に役立つ	47.3	41.6	52.6	100.0	39.8	45.3	54.6	71.0
9	芸術・文化は、地域社会・経済の活性化に役立つ	49.3	43.4	54.8	66.7	43.1	46.3	57.0	74.2
10	芸術・文化は、コミュニティのアイデンティティ形成・維持を促進する	44.4	39.8	48.8	66.7	38.6	42.5	51.2	54.8
11	芸術・文化は、日本人としての誇り、国民意識の形成・維持に役立つ	47.7	42.7	52.5	66.7	39.7	44.9	57.0	71.0
12	芸術・文化は、観光客を誘致するのに役立つ	56.1	49.8	62.1	66.7	46.3	55.1	64.3	80.6
13	芸術・文化は、雇用の創出に寄与する	38.1	32.5	43.3	66.7	31.3	38.9	41.7	54.8
14	芸術・文化は、産業競争力の強化において重要である	35.0	30.2	39.5	66.7	31.5	35.6	36.7	41.9
15	芸術・文化は、社会にイノベーションを起こすのに役立つ	37.0	31.7	41.9	66.7	32.7	35.6	41.5	51.6
16	芸術・文化は、人々の創造性、感性を高めるのに重要である	53.7	47.2	59.8	66.7	43.5	51.0	64.4	77.4
17	芸術・文化は、人々の知性、教養を高めるのに重要である	54.7	48.6	60.4	66.7	42.8	52.3	66.1	83.9
18	芸術・文化は、子どもの人格形成にとって重要である	50.4	43.5	56.9	66.7	38.6	47.7	62.2	80.6
19	芸術・文化は、子どものしつけに役立つ	33.3	28.0	38.2	33.3	30.6	33.1	35.0	48.4
20	芸術・文化は、大人の生涯教育に役立つ	47.3	39.3	54.9	33.3	38.3	46.9	53.8	80.6
21	芸術・文化は、人々の身体的・精神的健康状態をよくすることに役立つ	47.8	39.7	55.5	66.7	38.3	47.6	55.3	61.3

Q16 芸術・文化に関する次のような見解に対してあなたはどのように感じますか。

芸術・文化に関する見解についての共感度を尋ねたところ、「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が高いのは「芸術・文化は、時間に余裕がなければ楽しめない」48.7%(11.3% 37.4%)、「芸術・文化は、お金の余裕がなければ楽しめない」40.6%(10.1% 30.5%)、「芸術・文化は、知性・教養がなければ楽しめない」23.4%(3.8% 19.6%) などが上位に挙がる。

性別では、男性は「芸術・文化は一部の人の趣味であり、自分には関係ない」の項目が全体・女性より高い。女性は「芸術・文化はお金に余裕がなければ楽しめない」「芸術・文化は時間に余裕がなければ楽しめない」の項目が全体・男性より高くなっている。

年代別では10代、40～50代が「芸術・文化はお金に余裕がなければ楽しめない」で他の年代より高くなっており、さらに10代、40～50代、60～70代は「芸術・文化は時間に余裕がなければ楽しめない」で高くなっている。20～30代は「芸術・文化は一部の人の趣味であり、自分には関係ない」の割合が他年代より高い。

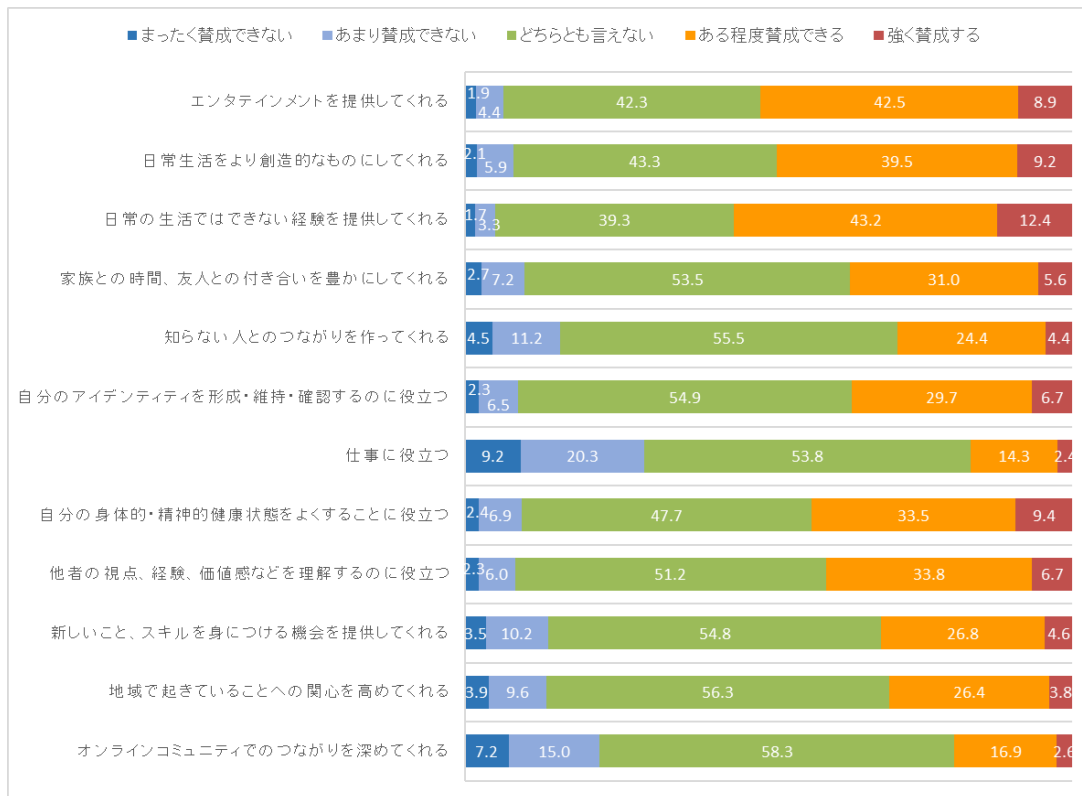


Q16 芸術・文化に関する見解 賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる」)の回答割合	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1 日本は芸術・文化に対して公的支援を十分に行っている	16.3	16.0	16.6	0.0	20.0	15.2	14.8	16.1
2 あなたの住む地域では芸術・文化に対して公的支援を十分に行っている	14.0	14.5	13.6	0.0	17.0	14.1	11.5	16.1
3 芸術・文化は、一部の人の趣味であり、自分には関係ない	16.5	18.5	14.7	0.0	22.3	16.4	12.4	9.7
4 芸術・文化は、知性・教養がなければ楽しめない	23.4	23.7	23.1	66.7	28.9	24.5	17.5	16.1
5 芸術・文化は、お金の余裕がなければ楽しめない	40.7	35.8	45.3	100.0	39.1	45.9	35.4	25.8
6 芸術・文化は、時間に余裕がなければ楽しめない	48.7	44.4	52.7	100.0	44.9	52.4	47.4	32.3

I—3. 文化芸術における社会的意義

Q17 芸術・文化があなたの生活に対して持つ意義として、挙げられる点それぞれに対してどの程度賛成するかをお答えください。

芸術・文化が生活に対して持つ意義に対する共感度を尋ねたところ、「賛成する(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が高いのは、「日常の生活ではできない経験を提供してくれる」55.6%(12.4% 43.2%)、「エンタテインメントを提供してくれる」51.4%(8.9% 47.5%)、「日常生活をより創造的なものにしてくれる」48.7%(9.2% 39.5%)などが上位に挙がる。性別では全て女性の回答の割合が男性より高い。特に男性より10%以上高いのは7項目に及び、特に14%の開きがあるのは「日常の生活ではできない経験を提供してくれる」62.8%。年代別では80代、60~70代で若い年代に比べて「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」とする項目が多い。20~30代は「新しいこと、スキルを身につける機会を提供してくれる」(31.8%)、「オンラインコミュニティでのつながりを深めてくれる」(24.3%)が他年代より高い。



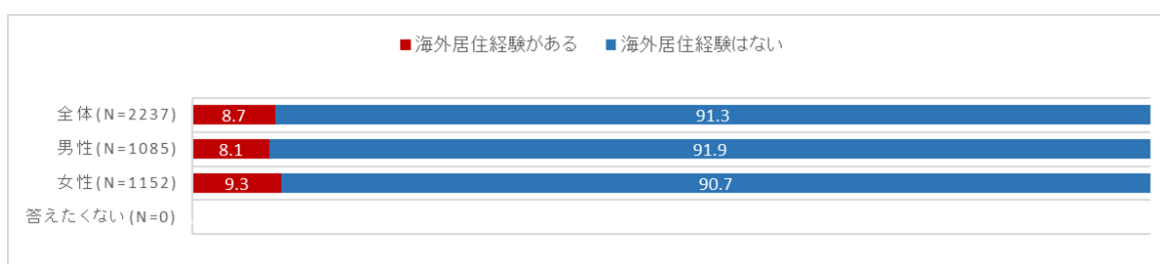
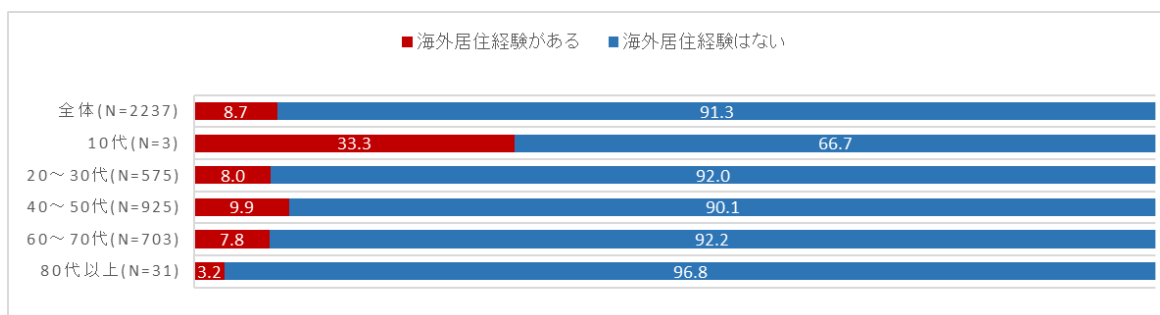
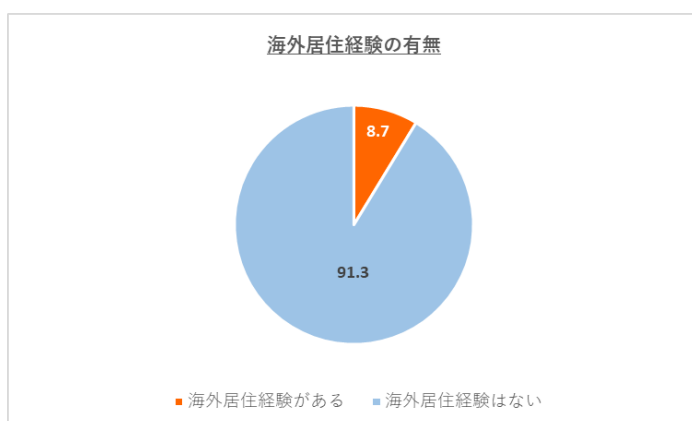
Q17 芸術・文化があなたの生活に対して持つ意義 賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる」)の回答割合	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1 エンタテインメントを提供してくれる	51.4	45.0	57.5	66.7	48.7	49.7	55.2	64.5
2 日常生活をより創造的なものにしてくれる	48.7	41.4	55.6	66.7	41.2	48.8	53.8	67.7
3 日常の生活ではできない経験を提供してくれる	55.7	48.0	62.8	100.0	45.4	55.1	63.4	80.6
4 家族との時間、友人との付き合いを豊かにしてくれる	36.7	30.7	42.3	66.7	33.2	35.4	40.4	51.6
5 知らない人とのつながりを作ってくれる	28.7	26.8	30.6	33.3	29.7	26.6	30.3	38.7
6 自分のアイデンティティを形成・維持・確認するのに役立つ	36.3	32.5	39.9	66.7	33.9	34.1	40.0	64.5
7 仕事に役立つ	16.7	16.0	17.4	0.0	21.2	16.9	12.5	25.8
8 自分の身体的・精神的健康状態をよくすることに役立つ	43.0	36.2	49.3	66.7	36.0	42.4	48.2	67.7
9 他者の視点、経験、価値感などを理解するのに役立つ	40.5	35.0	45.7	33.3	36.2	40.1	43.4	71.0
10 新しいこと、スキルを身につける機会を提供してくれる	31.5	26.5	36.2	0.0	31.8	31.2	30.6	54.8
11 地域で起きていることへの関心を高めてくれる	30.2	27.5	32.7	66.7	29.0	27.4	33.3	61.3
12 オンラインコミュニティでのつながりを深めてくれる	19.5	18.8	20.1	66.7	24.3	18.4	16.6	22.6

I—4. 文化芸術振興に関する支出について

Q18 あなたは、海外に居住経験がありますか。

海外居住経験を尋ねたところ、「海外居住経験がある」と回答した人の割合 8.7%。9割は「海外居住経験がない」と回答。

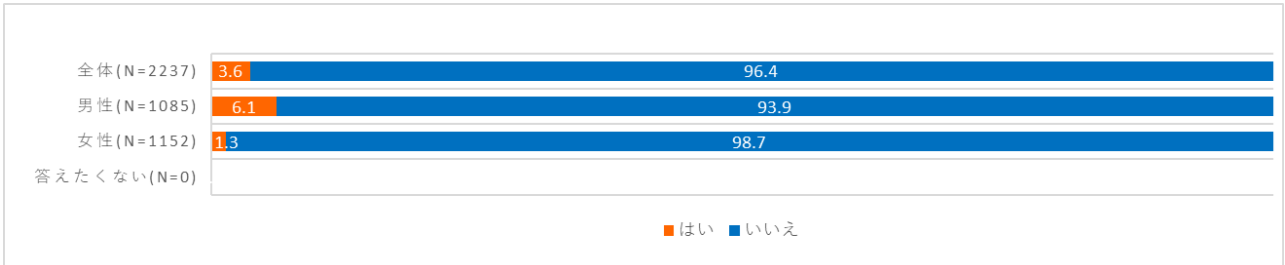
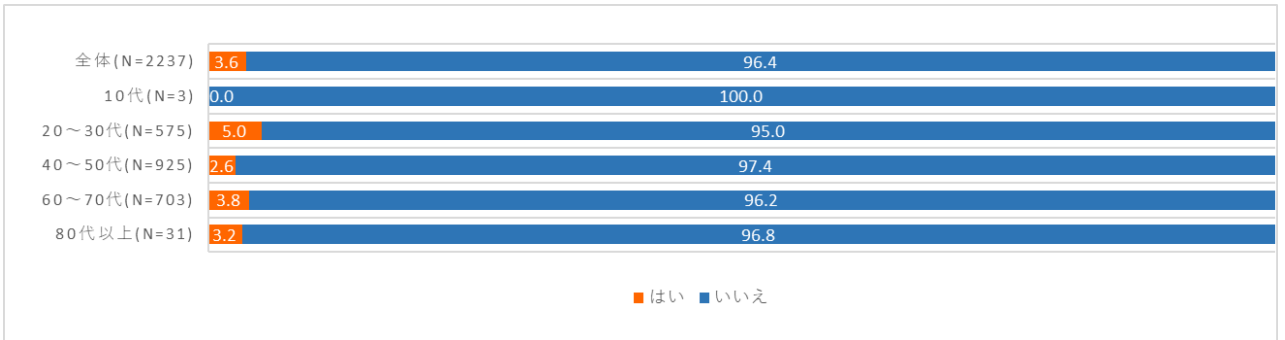
性別では、「海外居住経験がある」と回答した人の割合は女性のほうが多い。



I—4. 文化芸術振興に関する支出について

Q19 過去5年間で、1品あたりの価格が10万円(税込)以上の芸術作品を購入した経験がありますか。

過去5年間で1品あたりの価格が10万円(税込)以上の芸術作品の購入経験を尋ねたところ、「ある」と回答した人は3.6%と1割にも満たない。
 年代別で「購入経験がある」と回答した人は20～30代(5.0%)が他の年代と比べて高い。
 性別では「購入経験がある」と回答した人は男性(6.1%)のほうが女性より高い。



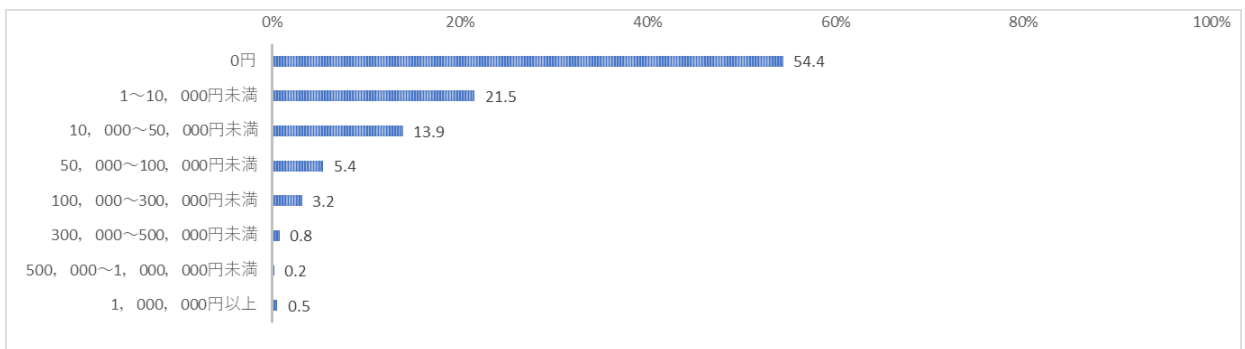
I-4. 文化芸術振興に関する支出について

Q20 あなたはこの1年間に、芸術文化に関連(レッスン料、制作費、楽器代、チケット代、会場への旅費、グッズ購入、会費、サブスクリプション代金、CD、DVD 購入費等)して合計どの程度支出を行いましたか。

この1年間に芸術文化に関連した支出を尋ねたところ、「0円」との回答が5割を超えた(54.4%)。支出した金額で最も割合が多く見られたのは「1～10,000円未満」(21.5%)、「10,000～50,000円未満」(13.9%)。

性別では、全ての金額において、男性が女性を上回っている。

年代別では、支出金額が他年代と比べて高いのは20～30代、40～50代。



Q20 最近1年間に芸術文化に関連して支出した金額	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0円	54.4	85.2	92.0	0.0	52.9	57.9	52.5	29.0
1～10,000円未満	21.5	6.5	4.7	33.3	23.5	18.6	22.9	41.9
10,000～50,000円未満	13.9	4.7	2.2	33.3	12.9	13.9	14.5	19.4
50,000～100,000円未満	5.4	2.1	0.6	33.3	5.7	5.3	5.4	0.0
100,000～300,000円未満	3.2	0.9	0.4	0.0	2.8	2.8	3.7	9.7
300,000～500,000円未満	0.8	0.2	0.1	0.0	1.2	0.5	0.7	0.0
500,000～1,000,000円未満	0.2	0.2	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0
1,000,000円以上	0.5	0.2	0.0	0.0	0.7	0.8	0.1	0.0

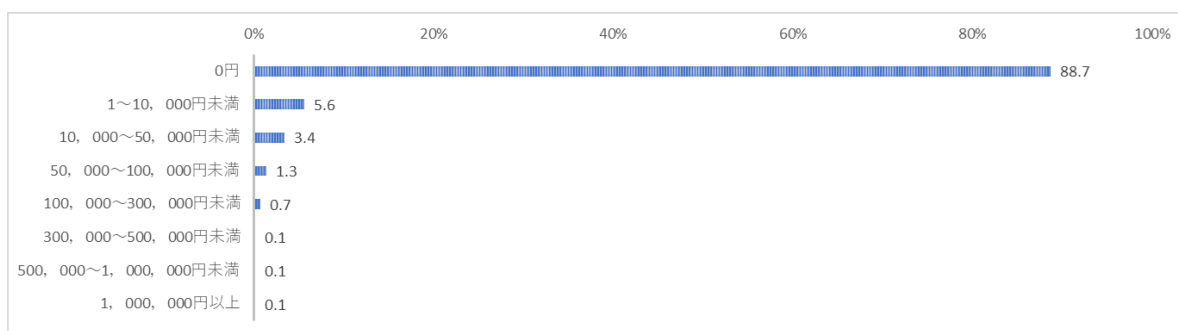
I—4. 文化芸術振興に関する支出について

Q21 あなたはこの1年間に、芸術文化に対してどの程度寄付(クラウドファンディングを含む)を行いましたか。

この1年間に芸術文化に対して行った寄付金額を尋ねたところ、「0円」との回答割合が88.7%だった。寄付金額で回答した人の割合が高いのは「10,000円未満」が5.6%、「10,000～50,000円未満」3.4%。

年代別で「50,000円」以上の高額寄付の割合が他の年代と比べて高いのは20～30代。

性別では男性のほうが女性より全体的に割合の高い様子が見られた。



Q21 最近1年間に芸術文化に対して寄付した金額	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0円	88.7	85.2	92.0	66.7	84.3	90.1	90.6	87.1
1～10,000円未満	5.6	6.5	4.7	33.3	5.0	5.5	6.0	6.5
10,000～50,000円未満	3.4	4.7	2.2	0.0	5.6	2.9	2.1	6.5
50,000～100,000円未満	1.3	2.1	0.6	0.0	2.6	1.1	0.7	0.0
100,000～300,000円未満	0.7	0.9	0.4	0.0	1.7	0.3	0.3	0.0
300,000～500,000円未満	0.1	0.2	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
500,000～1,000,000円未満	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0
1,000,000円以上	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0

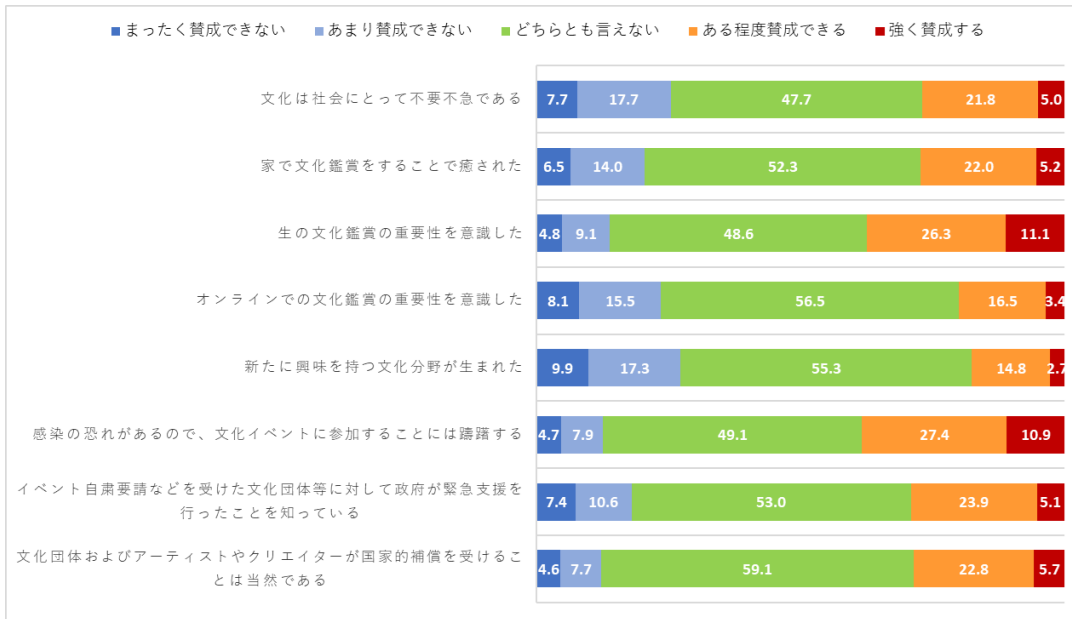
I—5. 日本の文化芸術振興と施策に関する意識

Q22 コロナ禍のこの2年余(2020年初めから現在まで)を振り返り、記述についてどう思いますか。

コロナ禍2年間を振り返って芸術文化に対する考えを尋ねたところ、「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が高い内容は、「感染の恐れがあるので、文化イベントに参加することは躊躇する」38.3%(10.9% 27.4%)、「生の文化鑑賞の重要性を意識した」37.4%(11.1% 26.3%)、「文化団体およびアーティストやクリエイターが国家的補償を受けることは当然である」29.0%(5.7% 22.8%)などが挙がる。

性別では全ての項目で「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」の意思が女性が男性を上回る。

年代別では20～30代が「オンラインでの文化鑑賞の重要性を意識した」で他の年代より高い。80代以上は「感染の恐れがあるので文化イベントに参加することには躊躇する」が他年代より高く(51.6%)、「生の文化鑑賞の重要性を意識した」(64.6%)、「家で文化鑑賞をすることで癒された」(46.2%)等が高くなっている様子が見られた。



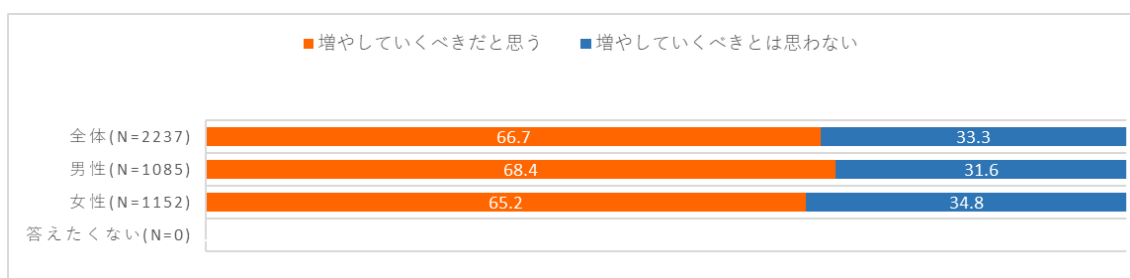
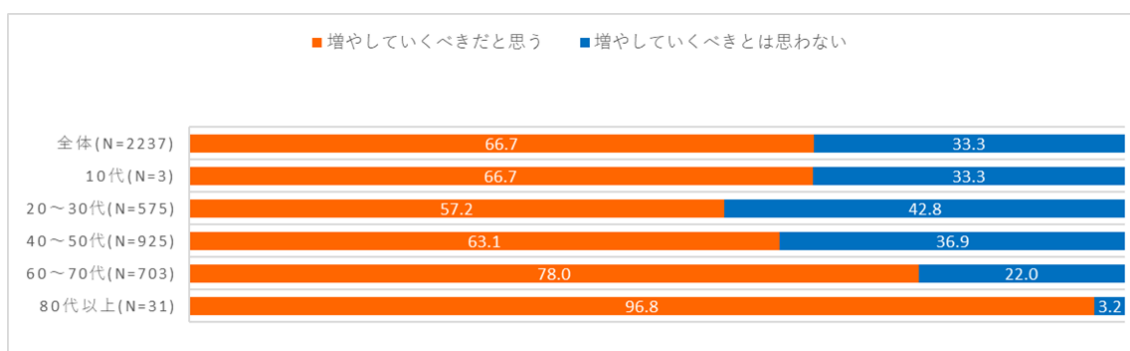
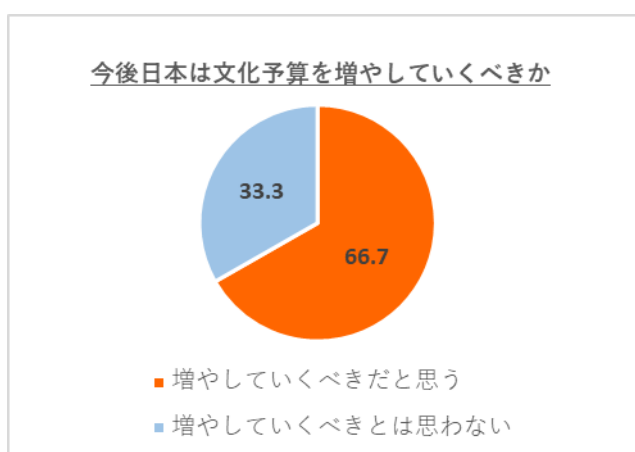
Q22	コロナ禍の2年で、芸術文化に感じた意識	全体 (n=2237)	性別		年代別				
			男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1	文化は社会にとって不要不急である	26.8	26.2	27.4	33.3	20.9	27.6	30.6	29.0
2	家で文化鑑賞をすることで癒された	27.2	24.9	29.3	33.3	26.8	25.8	28.4	45.2
3	生の文化鑑賞の重要性を意識した	37.4	32.0	42.5	66.7	30.8	35.2	44.4	64.5
4	オンラインでの文化鑑賞の重要性を意識した	19.9	20.5	19.4	0.0	22.4	19.8	18.2	19.4
5	新たに興味を持つ文化分野が生まれた	17.5	17.6	17.4	33.3	19.8	16.3	16.9	19.4
6	感染の恐れがあるので、文化イベントに参加することには躊躇する	38.3	34.6	41.8	33.3	28.9	36.5	47.7	51.6
7	イベント自粛要請などを受けた文化団体等に対して政府が緊急支援を行ったことを知っている	29.0	26.3	31.6	66.7	25.2	28.2	32.6	38.7
8	文化団体およびアーティストやクリエイターが国家的補償を受けることは当然である	28.6	26.2	30.8	33.3	23.7	25.6	35.1	58.1

Q23 日本の文化予算(文化庁予算)は国家予算の約0.1%です。フランスや韓国では約1%です。今後日本は文化予算を増やしていくべきだと思いますか。

今後日本は文化予算を増やしていくべきかどうかを尋ねたところ、「増やしていくべきだと思う」と回答した人の割合は66.7%。

年代が上がるほど「増やしていくべき」と回答している割合が高い。

性別では多少、男性が女性を上回った。



I—5. 日本の文化芸術振興と施策に関する意識

Q24 日本の文化振興のために今後どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。優先順位の高い順に1位から5位をお選びください。

日本の文化振興のために今後力を入れるべき施策を尋ねたところ、1位は「子どものころから美術館や劇場に親しめる環境を整備する」(30.0%)、「鑑賞料金等を安くする」(17.5%)、「魅力的な展示・イベントを行う」(14.4%)「日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する」(11.3%)等が上位に挙がる。

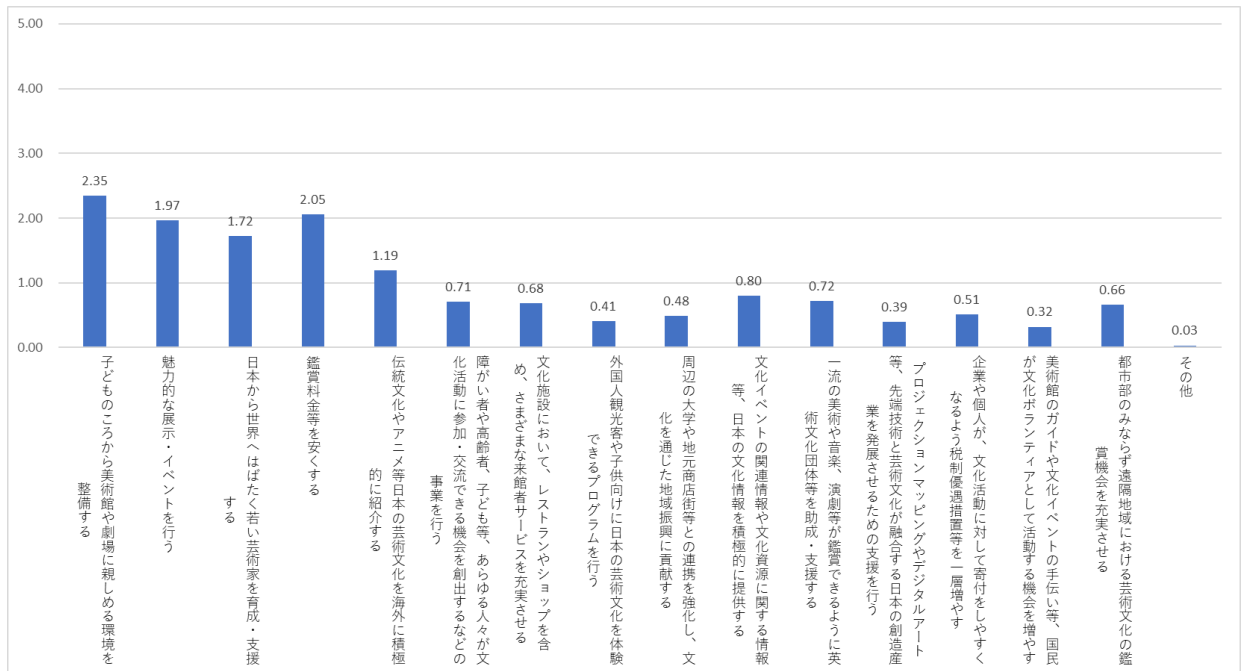
性別では、女性が「鑑賞料金等を安くする」(20.1%)が全体・男性より高い。

年代別では、40～50代も「鑑賞料金等を安くする」への反応が高い(21.5%)。「日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する」については20～30代が他の年代より高くなっており(14.3%)、「文化イベントの関連情報や文化資源に関する情報等、日本の文化情報を積極的に提供する」では、60～70代(4.7%)と80代以上(6.5%)が他の年代より高くなっている。

Q24 日本の文化振興のために今後力を入れるべき施策	1位 (n=2237)	2位 (n=2237)	3位 (n=2237)	4位 (n=2237)	5位 (n=2237)
子どものころから美術館や劇場に親しめる環境を整備する	30.0	9.6	8.8	6.3	7.1
魅力的な展示・イベントを行う	14.4	20.6	8.2	6.1	5.3
日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する	11.3	12.8	16.0	6.2	4.1
鑑賞料金等を安くする	17.5	14.5	9.7	12.9	5.0
伝統文化やアニメ等日本の芸術文化を海外に積極的に紹介する	6.9	8.1	8.0	8.5	11.5
障がい者や高齢者、子ども等、あらゆる人々が文化活動に参加・交流できる機会を創出するなどの事業を行う	2.4	4.4	6.7	7.0	6.8
文化施設において、レストランやショップを含め、さまざまな来館者サービスを充実させる	1.9	4.2	6.5	7.1	8.1
外国人観光客や子供向けに日本の芸術文化を体験できるプログラムを行う	0.8	2.4	3.6	5.0	5.9
周辺の大学や地元商店街等との連携を強化し、文化を通じた地域振興に貢献する	1.6	1.9	4.8	6.0	6.5
文化イベントの関連情報や文化資源に関する情報等、日本の文化情報を積極的に提供する	3.1	5.1	6.2	9.0	7.8
一流の美術や音楽、演劇等が鑑賞できるように芸術文化団体等を助成・支援する	2.6	4.7	6.5	6.6	6.9
プロジェクションマッピングやデジタルアート等、先端技術と芸術文化が融合する日本の創造産業を発展させるための支援を行う	1.1	2.5	2.7	5.3	5.3
企業や個人が、文化活動に対して寄付をしやすくなるよう税制優遇措置等を一層増やす	1.7	2.7	4.7	5.5	6.5
美術館のガイドや文化イベントの手伝い等、国民が文化ボランティアとして活動する機会を増やす	0.7	2.1	2.7	3.5	5.2
都市部のみならず遠隔地域における芸術文化の鑑賞機会を充実させる	3.3	4.3	5.0	5.0	7.8
その他	0.5	0.1	0.0	0.0	0.1

I—5. 日本の文化芸術振興と施策に関する意識

【Q24 日本の文化振興のために力を入れるべき施策 加重合計及び加重平均値による優先順位の集計】



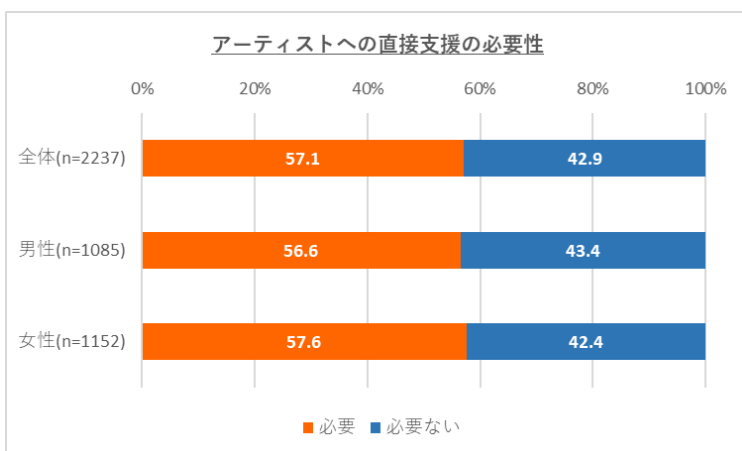
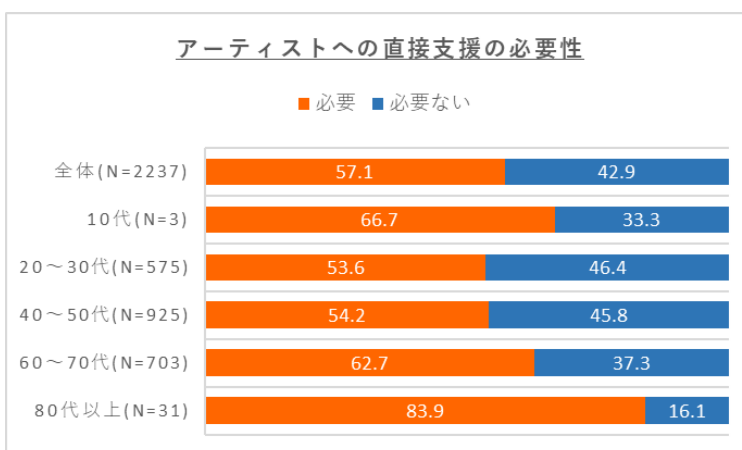
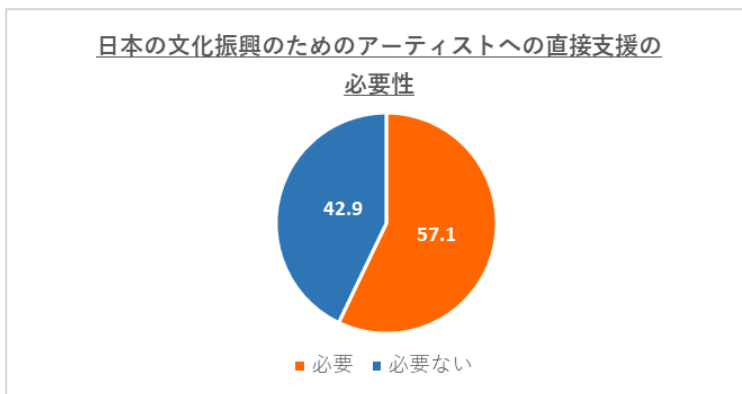
※1位を5点、2位を4点、3位を3点、4位を2点、5位を1点として加重合計し、加重平均値を算出。

Q24 1位における性別・年代別	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
子どものころから美術館や劇場に親しめる環境を整備する	30.0	30.3	29.7	33.3	31.8	28.0	30.9	35.5
魅力的な展示・イベントを行う	14.4	12.9	15.8	0.0	15.0	14.5	13.9	12.9
日本から世界へはばたく若い芸術家を育成・支援する	11.3	11.9	10.8	0.0	14.3	9.4	11.5	9.7
鑑賞料金を安くする	17.5	14.7	20.1	0.0	13.0	21.5	16.1	12.9
伝統文化やアニメ等日本の芸術文化を海外に積極的に紹介する	6.9	8.6	5.4	33.3	7.8	6.8	6.1	9.7
障がい者や高齢者、子ども等、あらゆる人々が文化活動に参加・交流できる機会を創出するなどの事業を行う	2.4	2.1	2.7	0.0	3.0	1.7	3.0	0.0
文化施設において、レストランやショップを含め、さまざまな来館者サービスを充実させる	1.9	2.0	1.8	0.0	2.4	2.4	0.7	6.5
外国人観光客や子供向けに日本の芸術文化を体験できるプログラムを行う	0.8	1.3	0.4	0.0	0.9	0.8	1.0	0.0
周辺の大学や地元商店街等との連携を強化し、文化を通じた地域振興に貢献する	1.6	2.0	1.1	0.0	1.6	1.4	1.7	3.2
文化イベントの関連情報や文化資源に関する情報等、日本の文化情報を積極的に提供する	3.1	3.4	2.9	0.0	1.7	2.7	4.7	6.5
一流の美術や音楽、演劇等が鑑賞できるように芸術文化団体等を助成・支援する	2.6	2.9	2.3	33.3	1.7	2.2	3.8	3.2
プロジェクションマッピングやデジタルアート等、先端技術と芸術文化が融合する日本の創造産業を発展させるための支援を行う	1.1	1.5	0.8	0.0	1.0	1.6	0.6	0.0
企業や個人が、文化活動に対して寄付をしやすくなるよう税制優遇措置等を一層増やす	1.7	2.1	1.4	0.0	1.4	2.2	1.6	0.0
美術館のガイドや文化イベントの手伝い等、国民が文化ボランティアとして活動する機会を増やす	0.7	0.7	0.7	0.0	1.2	0.5	0.6	0.0
都市部のみならず遠隔地域における芸術文化の鑑賞機会を充実させる	3.3	2.9	3.6	0.0	2.8	3.6	3.6	0.0
その他	0.5	0.5	0.5	0.0	0.3	0.8	0.3	0.0

Q25 日本の文化振興のためにアーティストへの直接的支援は必要だと思いますか。

日本文化振興のためのアーティストへの直接支援における必要性を尋ねたところ、「必要」と回答した人の割合は57.1%で半数を超えた。

年代別では、他の年代と比べて80代以上が8割(83.9%)以上が「必要」と回答した人の割合が高い。性別での大きな差は見られない。



【Q25 で「必要」と回答した方】

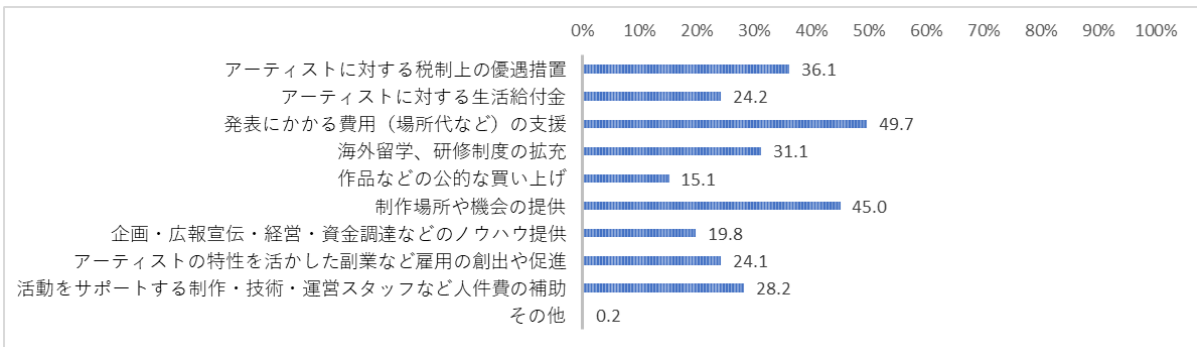
Q26 どのような支援が必要だと思いますか。（複数回答）

日本の文化振興のためにアーティストへの直接支援が必要と回答した人(n=1278)に、どのような支援が必要と思うか尋ねたところ、「発表にかかる費用(場所代など)の支援」(49.7%)、「制作場所や機会の提供」(45.0%)、「アーティストに対する税制上の優遇措置」(36.1%)などが上位に挙げられた。

年代別では 60 代～70 代、80 代以上が「発表にかかる費用の支援」(54.4% 69.2%)や「海外留学、研修制度の拡充」(40.1% 46.2%)が必要と回答した人の割合が他の年代と比べて高い。また 60～70 代では「制作場所や機会の提供」についても必要と回答した人が 50.6%と半数を超えている。

性別では、男性が「アーティストに対する税制上の優遇措置」(45.6%)や「アーティストに対する生活給付金」(31.8%)など金銭面での支援が必要と回答した人の割合が女性より高くなっている。

Q26 必要と思われる支援



Q26 必要と思われる支援	全体 (n=1278)	男性 (n=614)	女性 (n=664)	10代 (n=2)	20～30代 (n=308)	40～50代 (n=501)	60～70代 (n=441)	80代以上 (n=26)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アーティストに対する税制上の優遇措置	36.1	45.6	27.3	50.0	37.0	34.5	36.7	42.3
アーティストに対する生活給付金	24.2	31.8	17.2	0.0	29.9	22.4	22.0	30.8
発表にかかる費用(場所代など)の支援	49.7	50.2	49.2	50.0	45.5	47.1	54.4	69.2
海外留学、研修制度の拡充	31.1	29.5	32.7	0.0	26.9	25.1	40.1	46.2
作品などの公的な買い上げ	15.1	18.4	12.0	0.0	16.9	14.8	14.1	19.2
制作場所や機会の提供	45.0	41.2	48.5	50.0	38.0	44.7	50.6	38.5
企画・広報宣伝・経営・資金調達などのノウハウ提供	19.8	20.0	19.6	0.0	22.7	21.0	17.0	11.5
アーティストの特性を活かした副業など雇用の創出や促進	24.1	25.2	23.0	0.0	25.6	22.2	25.6	19.2
活動をサポートする制作・技術・運営スタッフなど人件費の補助	28.2	26.7	29.5	0.0	27.3	25.1	32.2	30.8
その他	0.2	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0

I-6. 人生観・生活価値観について

Q27	以下の考え方に対してあなたはどのように思いますか。
-----	---------------------------

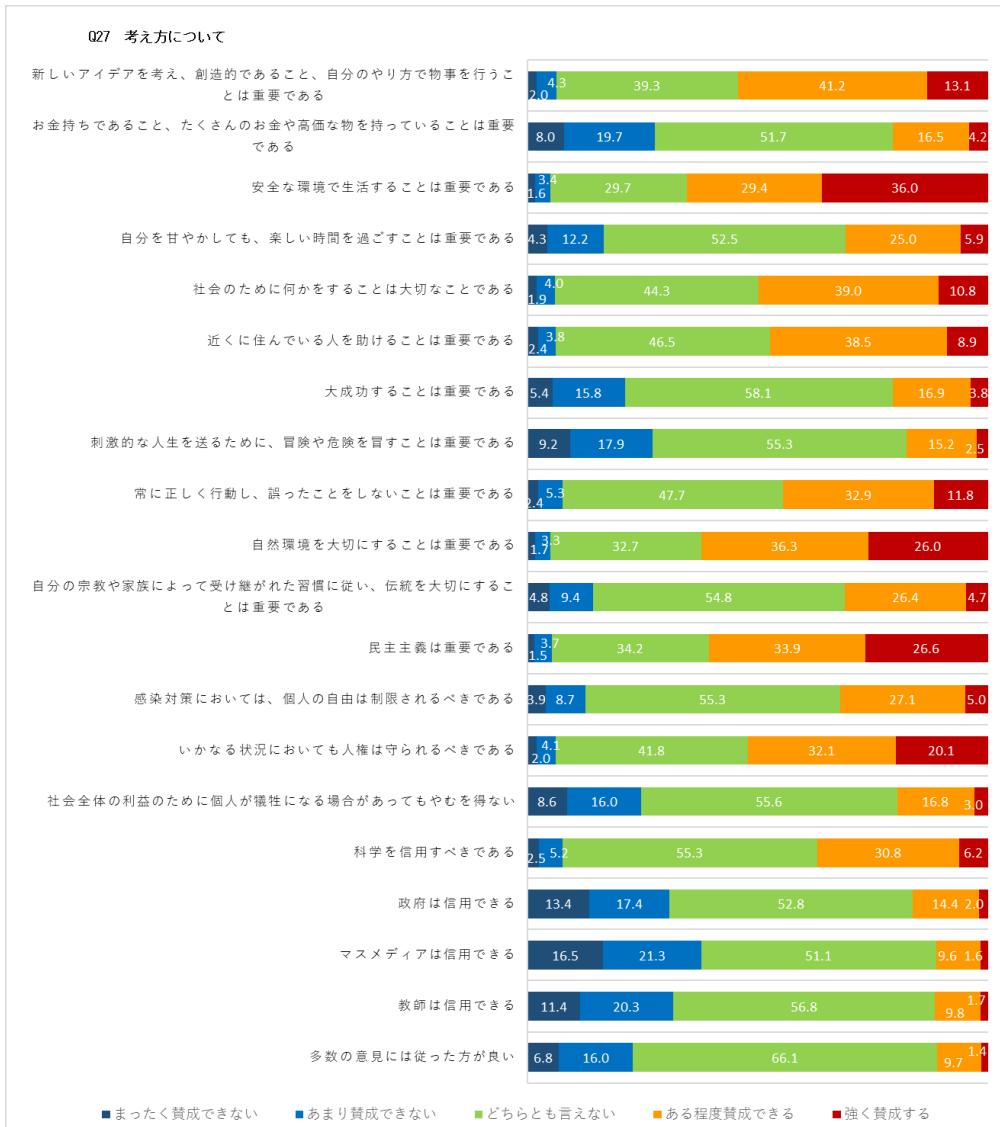
人生観の考え方について尋ねたところ、「賛成できる(「強く賛成する」「ある程度賛成できる)」と回答した人の割合が高いのは「安全な環境で生活することは重要である」65.4%(36.0% 29.4%)、「自然環境を大切にすることは重要である」62.3%(26.0% 36.3%)、「民主主義は重要である」60.5%(26.6% 33.9%)が上位3位。次いで「新しいアイデアを考え、創造的であること、自分のやり方で物事を行うことは重要である」54.3%(13.1% 41.2%)、「いかなる状況においても人権は守られるべきである」52.2%(20.1% 32.1%)など。

逆に「賛成できない(「まったく賛成できない」「あまり賛成できない)」と回答した人の割合が高いのは「マスメディアは信用できる」37.8%(16.5% 21.3%)、「教師は信用できる」31.7%(11.4% 20.3%)、「政府は信用できる」30.8%(13.4% 17.4%)の他、「お金持ちであること、たくさんのお金や高価な物を持っていることは重要である」「刺激的な人生を送るために、冒険や危険を冒すことは重要である」「大成功することは重要である」等が挙がる。

性別では、女性のほうが全体・男性より回答率が高い割合を示したのが「安全な環境で生活することは重要である」(70.1%)、「自然環境を大切にすることは重要である」(68.6%)、「いかなる状況においても人権は守られるべきである」(56.9%)、「社会のために何かをすることは大切なことである」(54.9%)、「近くに住んでいる人を助けることは重要である」(52.1%)などで半数を超えた。年代別では、若い10代、20～30代で、「お金持ちであること、たくさんのお金や高級な物を持っていることは重要である」(100.0% 28.7%)、「自分を甘やかしても、楽しい時間を過ごすことは重要である」(100.0% 38.3%)、「大成功することは重要である」(66.7% 24.2%)などが40代以上の中高齢層と比べて回答した割合が高くなっているのが特徴的。

60～70代、80代以上は、「自然環境を大切にすることは重要である」(75.8% 93.5%)、「民主主義は重要である」(76.0% 87.1%)が他の年代と比べて高くなっている。

I-6. 人生観・生活価値観について



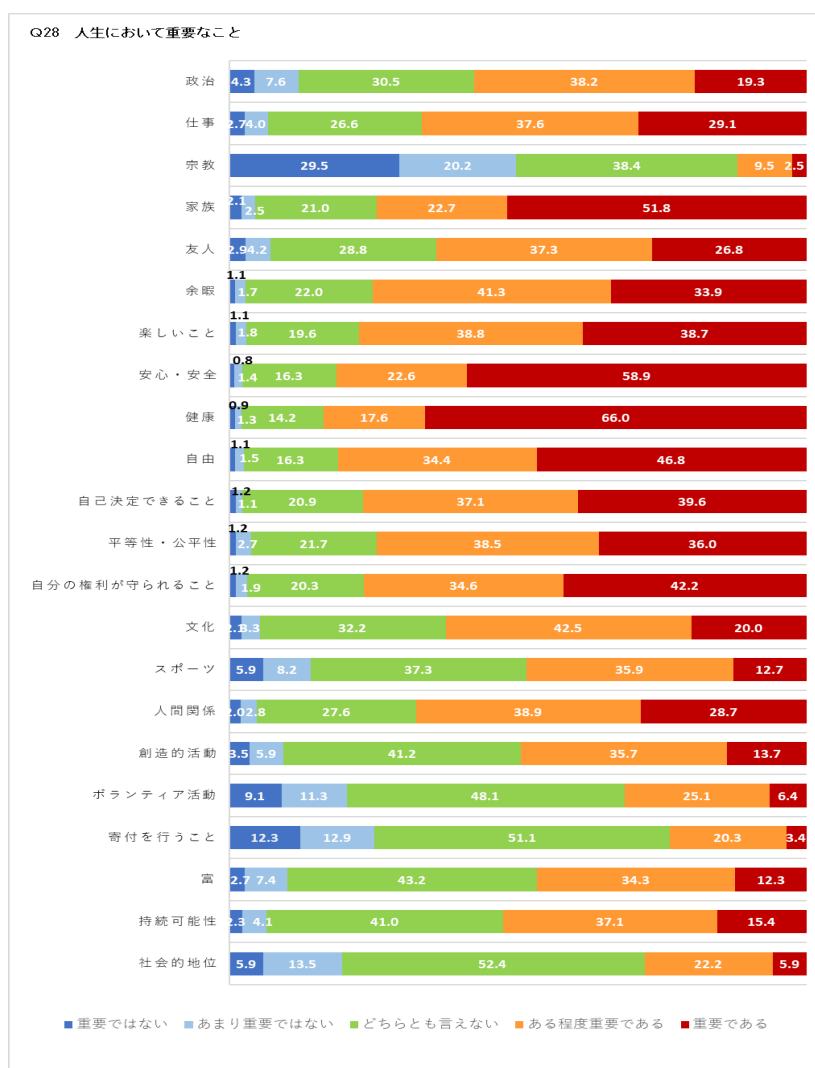
Q27 考え方について	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1 新しいアイデアを考え、創造的であること、自分のやり方で物事を行うことは重要である	54.4	51.6	56.9	100.0	42.3	51.2	66.9	83.9
2 お金持ちであること、たくさんのお金や高価な物を持っていることは重要である	20.7	20.9	20.4	100.0	28.7	22.7	11.7	6.5
3 安全な環境で生活することは重要である	65.4	60.4	70.1	100.0	52.9	64.0	76.7	80.6
4 自分を甘やかしても、楽しい時間を過ごすことは重要である	30.9	27.0	34.5	100.0	38.3	33.7	21.2	22.6
5 社会のために何かをすることは大切なことである	49.8	44.2	54.9	33.3	36.9	47.5	61.6	90.3
6 近くに住んでいる人を助けることは重要である	47.4	42.4	52.1	33.3	34.8	44.4	60.0	83.9
7 大成功することは重要である	20.7	20.6	20.7	66.7	24.2	20.5	18.3	9.7
8 刺激的な人生を送るために、冒険や危険を冒すことは重要である	17.6	18.1	17.2	33.3	22.4	16.8	14.9	12.9
9 常に正しく行動し、誤ったことをしないことは重要である	44.6	42.8	46.4	66.7	35.5	40.6	56.3	64.5
10 自然環境を大切にすることは重要である	62.3	55.7	68.6	33.3	47.1	60.5	75.8	93.5
11 自分の宗教や家族によって受け継がれた習慣に従い、伝統を大切にすることは重要である	31.1	29.9	32.2	66.7	24.2	29.8	37.0	58.1
12 民主主義は重要である	60.6	59.0	62.1	100.0	46.4	56.6	76.0	87.1
13 感染対策においては、個人の自由は制限されるべきである	32.1	32.2	31.9	33.3	24.3	31.5	38.4	48.4
14 いかなる状況においても人権は守られるべきである	52.2	47.3	56.9	100.0	42.4	49.2	63.0	74.2
15 社会全体の利益のために個人が犠牲になる場合があってもやむを得ない	19.8	22.1	17.5	33.3	21.7	18.9	19.2	19.4
16 科学を信用すべきである	37.1	40.1	34.2	66.7	32.3	34.6	43.2	54.8
17 政府は信用できる	16.4	16.4	16.3	0.0	16.9	15.7	16.8	19.4
18 マスメディアは信用できる	11.2	12.4	10.1	0.0	14.3	10.7	9.5	9.7
19 教師は信用できる	11.5	12.2	10.9	0.0	13.2	10.4	11.2	22.6
20 多数の意見には従った方がよい	11.0	11.4	10.7	33.3	15.5	10.5	7.5	22.6

Q28 人生において、各項目はどの程度重要ですか。

人生において「重要である(「重要である」「ある程度重要である)」ことを尋ねてみると、1位は「健康」83.6%(66.0% 17.4%)、2位は「安心・安全」81.5%(58.9% 22.6%)、3位は「自由」81.2%(46.8% 34.4%)。次いで「自分の権利が守られること」76.8%(42.2% 34.6%)、「自己決定できること」76.7%(39.6% 37.1%)など。「重要である」のみで挙げると「健康」(66.0%)、「安心・安全」(58.9%)、「家族」(51.8%)が上位3位となる。

性別では、「政治」「仕事」「宗教」以外の全項目で、女性のほうが男性より「重要である(「重要である」「ある程度重要である)」と回答した人の割合が高い。特に「余暇」「楽しいこと」「自己決定できること」「人間関係」などで「重要である」と回答した割合が男性より高くなっている。

年代別では、全体的に年代の高い層が「重要である(「重要である」「ある程度重要である)」と回答した項目が多い。10代・20～30代が他の年代に比べて「重要である(「重要である」「ある程度重要である)」と感じた割合が高い項目は「富」が挙げられる。



I—6. 人生観・生活価値観について

Q28 人生において重要なこと 重要である（「重要である」「ある程度重要である」）	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1 政治	57.5	59.0	56.2	100.0	40.9	54.7	73.3	90.3
2 仕事	66.7	66.8	66.5	100.0	53.4	65.3	78.1	90.3
3 宗教	11.9	12.9	11.0	0.0	15.5	10.3	11.1	16.1
4 家族	74.5	70.9	77.9	66.7	61.2	72.8	86.5	100.0
5 友人	64.1	60.7	67.3	100.0	51.5	60.9	77.2	93.5
6 余暇	75.2	71.2	79.0	100.0	65.4	75.7	81.9	87.1
7 楽しいこと	77.5	73.2	81.5	100.0	67.1	78.5	83.9	90.3
8 安心・安全	81.4	77.9	84.8	100.0	67.5	81.9	91.3	100.0
9 健康	83.6	80.3	86.8	66.7	70.8	84.2	92.7	100.0
10 自由	81.1	78.2	83.9	100.0	69.0	82.3	88.6	100.0
11 自己決定できること	76.8	72.9	80.4	100.0	62.6	77.7	85.9	100.0
12 平等性・公平性	74.5	69.9	78.8	100.0	60.3	73.3	86.5	96.8
13 自分の権利が守られること	76.7	72.8	80.4	100.0	62.6	76.6	87.3	96.8
14 文化	62.4	59.5	65.2	100.0	50.8	57.7	76.5	96.8
15 スポーツ	48.5	48.3	48.8	0.0	37.4	45.4	60.9	74.2
16 人間関係	67.6	62.8	72.2	100.0	56.9	66.2	77.2	90.3
17 創造的活動	49.4	47.8	51.0	66.7	38.6	45.1	62.4	83.9
18 ボランティア活動	31.5	31.4	31.6	0.0	22.8	26.6	44.0	61.3
19 寄付を行うこと	23.7	22.8	24.6	33.3	20.5	21.9	27.6	45.2
20 富	46.7	43.2	49.9	100.0	51.1	47.6	41.8	41.9
21 持続可能性	52.5	50.2	54.7	66.7	44.2	48.2	63.9	77.4
22 社会的地位	28.1	27.8	28.3	100.0	32.5	25.3	27.0	45.2

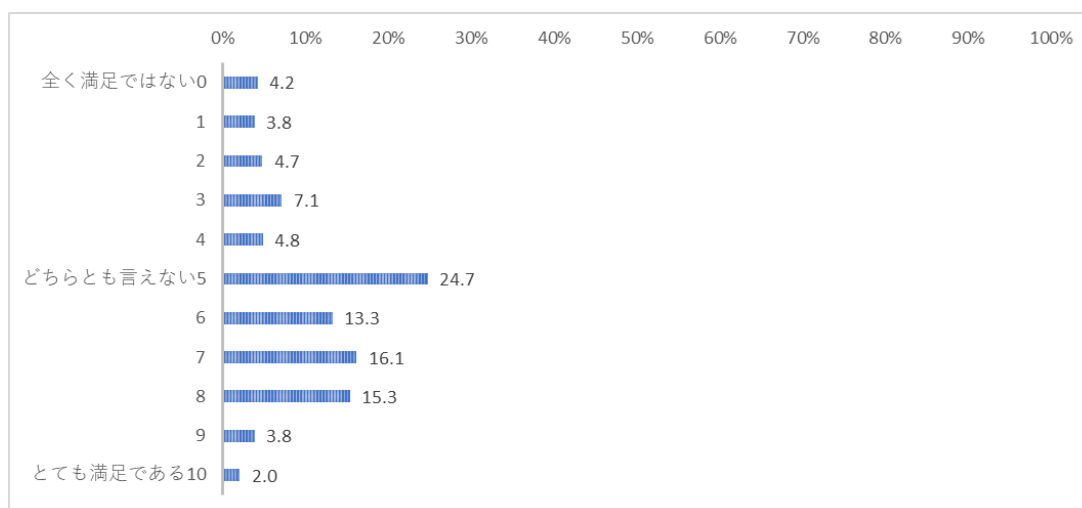
I—6. 人生観・生活価値観について

Q29 あなたは最近、自分の人生に全体としてどの程度満足していますか。

自分の人生に対する満足度を尋ねたところ、「どちらともいえない(5)」と回答した人が24.7%。全体的には「どちらともいえない」より上の6~10(比較的満足の感覚)と回答した人の割合は50.5%。「どちらとも言えない」より下の0~4(比較的満足でない感覚)と回答した人の割合を合わせると24.6%。

性別では「満足ではない」と回答した人の割合は男性のほうが多く、「満足(8~10)」と回答した人は女性のほうが多い。

年代別では比較的60~70代、80代以上のほうが若い年代より「満足(7~10)」と回答した人の割合が高くなっている。



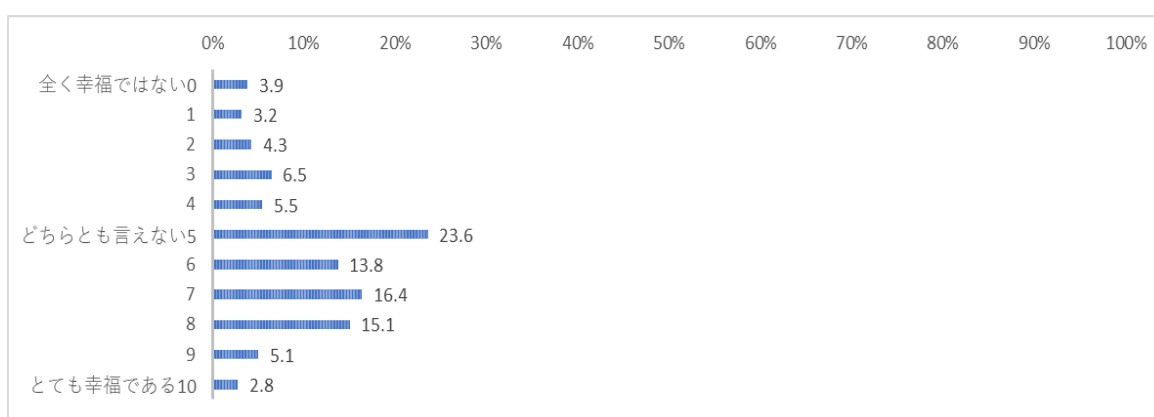
Q29 自分の人生に対する満足度	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20~30代 (n=575)	40~50代 (n=925)	60~70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全く満足ではない0	4.2	5.0	3.5	33.3	6.6	4.6	1.7	0.0
1	3.8	3.5	4.1	0.0	3.3	5.7	1.7	3.2
2	4.7	5.1	4.4	0.0	4.7	4.4	5.1	6.5
3	7.1	7.6	6.7	0.0	9.2	8.4	3.7	6.5
4	4.8	5.7	4.0	33.3	4.9	5.0	4.7	0.0
どちらとも言えない5	24.7	25.1	24.4	0.0	31.5	25.1	19.2	16.1
6	13.3	12.8	13.7	0.0	14.6	13.3	12.5	6.5
7	16.1	16.4	15.9	0.0	13.0	14.4	20.9	19.4
8	15.3	14.2	16.4	33.3	8.0	13.9	22.2	35.5
9	3.8	2.9	4.8	0.0	2.3	3.4	5.7	6.5
とても満足である10	2.0	1.8	2.2	0.0	1.9	1.7	2.6	0.0

Q30 あなたは最近、全体としてどの程度幸福ですか。

最近の幸福度について尋ねたところ、「どちらともいえない(5)」と回答した人が 23.6%。全体的には「どちらともいえない」より上の 6～10 の回答(比較的幸福感)を合わせると 53.2%で半数を超える。0～4 と回答した人(比較的幸でない感覚)の割合は合わせると 23.4%。

性別では、全体的に女性のほうが「幸福である」と感じている人の割合が高い傾向。

年代別では、60～70 代、80 代以上が、他の年代に比べて「幸福である」と感じている人の割合が高くなっている。



Q30 自分自身の幸福度	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全く幸福ではない 0	3.9	5.0	2.9	33.3	6.3	3.8	2.1	0.0
1	3.2	2.9	3.5	0.0	3.5	4.4	1.3	3.2
2	4.3	4.0	4.6	0.0	4.3	4.6	3.8	3.2
3	6.5	7.3	5.7	33.3	7.0	7.5	4.6	9.7
4	5.5	6.5	4.5	0.0	5.7	5.9	5.0	0.0
どちらとも言えない 5	23.6	24.8	22.5	0.0	31.3	24.2	17.1	12.9
6	13.8	13.0	14.5	0.0	14.8	13.5	13.4	12.9
7	16.4	16.6	16.1	0.0	13.0	14.9	20.9	19.4
8	15.1	14.0	16.1	33.3	9.4	13.7	20.9	25.8
9	5.1	3.6	6.4	0.0	2.4	4.5	7.7	9.7
とても幸福である 10	2.8	2.4	3.2	0.0	2.3	2.8	3.3	3.2

Q30	あなたは記述に対して、どの程度あてはまりますか。
-----	--------------------------

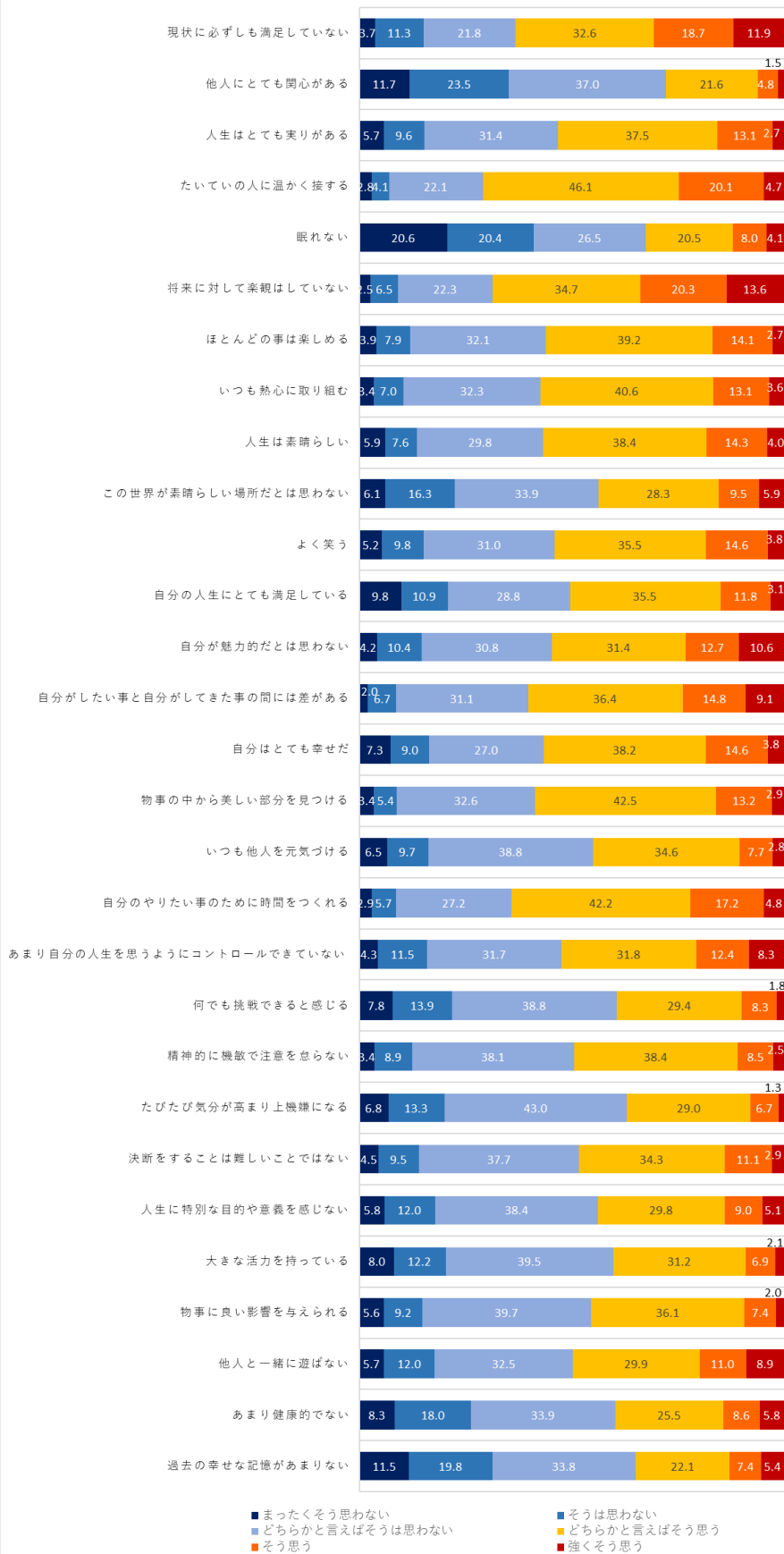
自分自身のことについて尋ねたところ、全体的に「そう思う」「強くそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じていたのは、1位「たいていの人に温かく接する」70.9% (4.7% 20.1%)、2位「将来に対して楽観はしていない」68.6% (13.6% 20.3%)、3位「自分のやりたい事のために時間をつくれる」64.2% (4.8% 17.2%)などが上位。次いで「現状に必ずしも満足していない」63.2% (11.9% 18.7%)、「自分がしたい事と自分がしてきた事の間には差がある」60.3% (9.1% 14.8%)など。

性別では、女性が「そう思う」「強くそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が男性より特に高いのは「たいていの人に温かく接する」(76.6%)、「自分のやりたい事のために時間をつくれる」(68.1%)、「物事の中から美しい部分を見つける」(63.4%)「よく笑う」(60.8%)、「ほとんどの事は楽しめる」(60.8%)、「自分はとても幸せだ」(60.2%)など。全体的に男性よりポジティブな思考の傾向が感じられる。

年代別では、10代、20～30代、40～50代で「現状に必ずしも満足していない」(各々66.7% 70.3%、65.2%)、「自分が魅力的だとは思わない」(各々66.7% 61.4% 59.2%)、「人生に特別な目的や意義を感じない」(各々66.7% 52.0% 46.4%)、「あまり健康的でない」(各々100.0% 48.2% 39.9%)、「過去の幸せな記憶があまりない」(各々33.3% 46.4% 38.1%)など。若い世代の方が60代～80代の高齢層よりネガティブな思考の傾向がうかがえる。

I-6. 人生観・生活価値観について

Q31 自分自身のことについて



I—6. 人生観・生活価値観について

Q31 自分自身について	全体 (n=2237)	性別		年代別				
		男性 (n=1085)	女性 (n=1152)	10代 (n=3)	20～30代 (n=575)	40～50代 (n=925)	60～70代 (n=703)	80代以上 (n=31)
1 現状に必ずしも満足していない	63.2	62.9	63.5	66.7	70.3	65.2	55.2	54.8
2 他人にとっても関心がある	27.8	28.4	27.3	0.0	35.7	24.9	24.9	41.9
3 人生はとてつもない	53.3	49.6	56.8	33.3	49.6	49.7	60.0	77.4
4 たいていの人に温かく接する	70.9	64.9	76.6	66.7	61.2	69.6	79.8	90.3
5 眠れない	32.5	31.3	33.7	33.3	40.3	32.8	25.9	32.3
6 将来に対して楽観はしていない	68.6	67.9	69.3	33.3	68.0	69.8	67.1	80.6
7 ほとんどの事は楽しめる	56.1	51.3	60.6	66.7	52.0	54.9	60.2	74.2
8 いつも熱心に取り組む	57.4	54.5	60.1	66.7	50.3	54.9	65.4	77.4
9 人生は素晴らしい	56.7	55.1	58.2	0.0	48.5	52.3	68.6	77.4
10 この世界が素晴らしい場所だとは思わない	43.7	43.4	44.0	66.7	54.3	44.9	34.3	25.8
11 よく笑う	54.0	46.8	60.8	33.3	52.0	52.0	58.7	45.2
12 自分の人生にとっても満足している	50.5	49.6	51.3	33.3	43.7	46.3	61.2	61.3
13 自分が魅力的だとは思わない	54.7	50.8	58.3	66.7	61.4	59.2	44.0	35.5
14 自分がしたい事と自分がしてきた事の間には差がある	60.3	58.4	62.1	66.7	63.0	62.4	55.2	64.5
15 自分はとても幸せだ	56.7	52.9	60.2	33.3	52.0	53.1	65.1	61.3
16 物事の中から美しい部分を見つける	58.6	53.5	63.4	66.7	52.2	55.6	67.0	77.4
17 いつも他人を元気づける	45.0	39.7	50.0	33.3	40.5	41.4	52.8	61.3
18 自分のやりたい事のために時間をつくれる	64.2	60.0	68.1	66.7	56.5	61.1	73.8	80.6
19 あまり自分の人生を思うようにコントロールできていない	52.4	50.5	54.3	66.7	58.6	54.6	45.1	38.7
20 何でも挑戦できると感じる	39.4	40.7	38.2	33.3	44.5	34.8	40.4	61.3
21 精神的に繊敏で注意を怠らない	49.5	48.1	50.8	0.0	49.0	47.6	51.6	71.0
22 たびたび気分が高まり上機嫌になる	37.0	35.2	38.7	33.3	43.7	34.2	34.9	48.4
23 決断をすることは難しいことではない	48.3	45.1	51.4	0.0	43.7	46.1	54.9	58.1
24 人生に特別な目的や意義を感じない	43.9	42.2	45.4	66.7	52.0	46.4	34.4	29.0
25 大きな活力を持っている	40.2	40.2	40.3	0.0	41.0	36.5	44.2	48.4
26 物事に良い影響を与えられる	45.5	43.0	47.7	33.3	44.0	41.8	51.1	54.8
27 他人と一緒に遊ばない	49.8	48.4	51.2	33.3	58.6	56.5	34.4	38.7
28 あまり健康的でない	39.8	41.1	38.6	100.0	48.2	39.9	32.6	41.9
29 過去の幸せな記憶があまりない	34.9	35.5	34.4	33.3	46.4	38.1	22.2	16.1